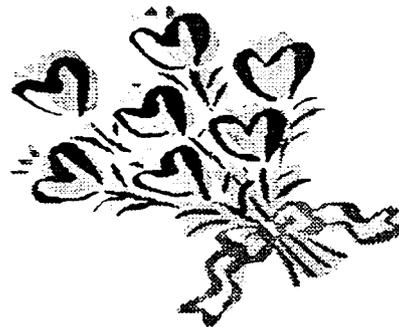
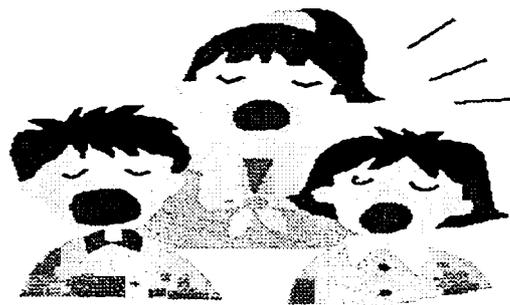


〔中学校 特別活動〕

信頼し合える望ましい人間関係を育てる 学級活動の工夫

— 学校行事と関連させた「構成的グループエンカウンター」の活動を通して —



浦添市立神森中学校

宮里 リカ子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す生徒像	1
III	研究の目標	1
IV	研究の仮説 1 基本仮説 2 作業仮説	1
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	信頼し合える望ましい人間関係を育成する学級経営	3
2	信頼し合える望ましい人間関係を育てるプロセス	3
3	「構成的グループエンカウンター」について	3
(1)	「構成的グループエンカウンター」の展開	3
(2)	エクササイズの精選	3
4	学校行事と「構成的グループエンカウンター」	3
(1)	学校行事の目的	4
(2)	学校行事と「構成的グループエンカウンター」との関連	4
(3)	学校行事における「構成的グループエンカウンター」	4
	の指導計画書（中学1年生～3年生）	5
5	生徒理解と学級の把握（アンケート）	11
VII	研究実践	11
1	生徒理解と学級の把握のアンケート調査の結果と考察	11
(1)	「Q-U」アンケートの結果と考察	11
(2)	自作アンケートの結果と考察	12
(3)	担任の目からみた生徒の様子	16
2	全体計画（指導計画）	16
VIII	授業実践	17
1	実践の記録（実践事例 No.①～⑤）	17
2	公開検証授業	24
IX	研究の考察	28
1	作業仮説(1)～(3)	28
X	研究の成果と課題	30
1	研究の成果	30
2	今後の課題	31
	【おわりに】	31
	【主な参考・引用文献】	31

信頼し合える望ましい人間関係を育てる学級活動の工夫 —学校行事と関連させた「構成的グループエンカウンター」の活動を通して—

浦添市立神森中学校 宮里リカ子

【要約】

本研究は、信頼し合える学級づくりを目的として、行事と「構成的グループエンカウンター」を関連づけた授業展開を試みたものである。行事の取り組み前やまとめに「構成的グループエンカウンター」を活用することで、行事への意識が高まり、行事の結果に関係なく望ましい人間関係が育った。

キーワード □学校行事 □「構成的グループエンカウンター」 □「Q-U」アンケート
□信頼し合える望ましい人間関係

I テーマ設定の理由

現在の日本社会は、1970年代頃から核家族化、少子化、都市化が急速に進み、多くの子ども達は限られた狭い人間関係の中で育ち人間関係が希薄化していると言われている。人との交わりを通して人から認められていると感じる機会や、自分を知る機会、自分の気持ちを伝える表現方法の模範を示してくれる場面も少なくなっている。

現在の中学生の中には、自分の考えや気持ちを伝える「自己表現力」や相手の気持ちを考えて行動する「思いやりの心」など人間関係づくりの上で大切な事が苦手な生徒が増えているなど、対人関係づくりの力の低下が指摘されている。

また、生徒たちの付き合い方は、自他の違いを認め、話し合うことで解決できるという協調関係ではなく、グループの言葉の強い生徒に合わせ、自分の考えを出さない同調関係の傾向にあるという。

このようなことから、学校における集団生活は人間関係を学ぶ場として一層重要である。

中学校学習指導要領「特別活動」の目標に、「望ましい集団活動を通して、心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」と示されている。また、学級活動の内容は、「自己及び他者の個性の理解と尊重、男女相互の理解と協力、望ましい人間関係の確立」と示されている。

ところで、本校では教育目標の一つに「優しい心を持ち、正しく行動する生徒」を掲げ、全ての学校教育活動を通して、その実現に努力しているところである。多くの学校で行事の数が減っていく昨今、本校では行事の重要性を評価し、従前と変わらない数を維持している。

学校行事は学級の一員であるという所属感を深め、学校生活の充実と発展を促す体験的な活動であり、生徒の人間関係づくりの機会としては、有効である。

実際、私が学年度スタートの4月に、学級目標を決める際に実施したアンケートで、「行事で1番をとる」と答えた生徒が男女ともに多く、学校行事に対する期待が高かった。

この傾向は全体的に見られ、その行事の結果によって、生徒間で「勝ち組」「負け組」と評価しあう様子も見られた。行事の結果が思わしくなかった学級では、教師・生徒共に不完全燃焼で行事を終えてしまっており、次の行事へ活かす方法が分からず、学級の雰囲気や人間関係にも少なからず影響している。

そこで、学級における人間関係づくりや自己発見をねらいとする「構成的グループエンカウンター」(※)を行事の目的に関連させて活用することで、自他を理解し、協力できる生徒を育み、学級の雰囲気や人間関係が行事の結果によって左右されることなく、行事を終えるごとに人間関係が深まり、信頼し合える人間関係を築くことができると考え、本テーマを設定した。

[※「構成的グループエンカウンター」(Structured Group Encounter, 略称SGE)は集中的グループ経験の一つで、開発的カウンセリング(「育てる」カウンセリング)の一技法として國分康孝氏が推奨しているものである。]

II 目指す生徒像

◎自他を理解し、信頼し合える生徒

III 研究の目標

学校行事と関連させた「構成的グループエンカウンター」を効果的に実践することにより、信頼し合える人間関係の育成を目指す学級活動を探求する。

IV 研究の仮説

1 基本仮説

学級活動において、行事に関連させて構成的

グループエンカウンターを実践することにより、自己発見や他者理解を促し、信頼し合える人間関係を築くことができるであろう。

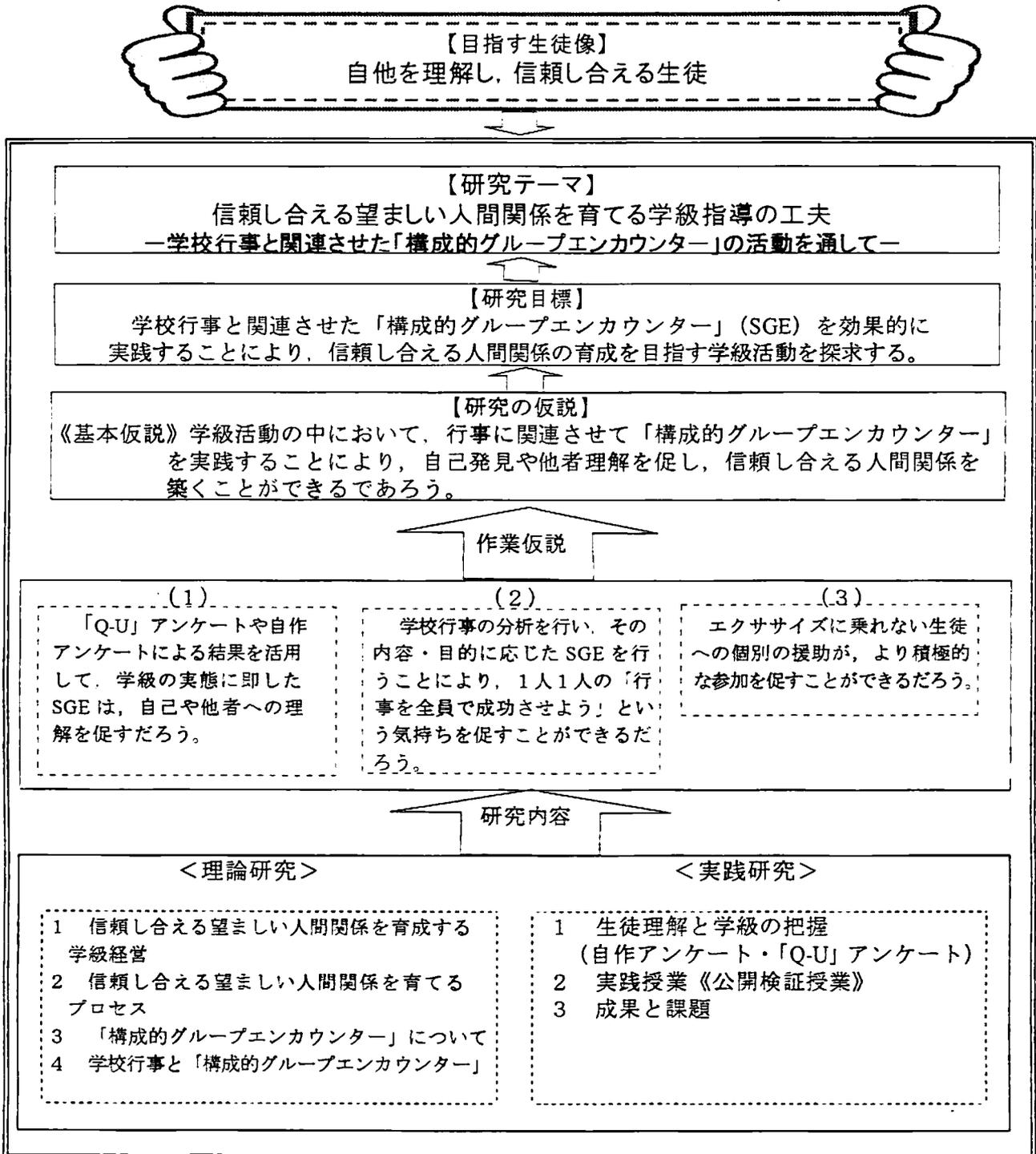
2 作業仮説

- (1) 「Q-U」アンケートや自作のアンケートによる結果を活用して、学級の実態に即した「構成的グループエンカウンター」は、自己や他者への理解を促すだろう。
- (2) 学校行事の分析を行い、その内容・目的

に応じた構成的グループエンカウンターを行うことにより、一人一人の「行事を全員で成功させよう」という気持ちを促すことができるであろう。

- (3) エクササイズに乗れない生徒への個別の援助が、より積極的な参加を促すことができるだろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 信頼し合える望ましい人間関係を育成する学級経営

人間関係において大切なものの一つに、「信頼」が挙げられる。私たち教師が行う学級づくりの基礎となるのも、教師と生徒、生徒同士の友好的「信頼関係」である。その「信頼」とは、信じて頼ること（広辞苑 第四版より）とある。

例えば数学の問題が解けず、この人ならば解き方を教えてくれると信じ頼ることができたり、失敗して落ち込んだり悩んでいる時に、相手を信じ自分の気持ちを打ち明けられたり、一つの共通の目標に向けて一緒に行動できたりという生徒の様子が学校生活のあらゆる面で見ることができれば、「信頼関係」が築けているといえるのではないだろうか。それではどのようなプロセスで信頼し合える望ましい人間関係が育つのかを考えてみる。

2 信頼し合える望ましい人間関係を育てるプロセス

① 生徒と生徒が触れあい、交流し、お互いを理解しあう。交流の機会が増えるとともに「相互理解」は徐々に深まり、自他の良さや違いはその生徒の特徴としてお互いに認知するようになる。

② お互いの個性を肯定的に受けとめあう「相互受容」の関係が成立することで、生徒は心理的に安心感を持ち、他者への信頼感を抱くようになる。

③ 他者への信頼感はいかに協力しあう「相互協力」の関係によってさらに深まる。つまり同じ目的に向かって助け合いながら活動することによってお互いを信頼できる他者としてとらえることができる。

④ 他者の立場を思いやり、お互いの思いや考えを尊重した関わりをする「相互尊重」の関係が成立する。

①～④のプロセスを経て、生徒相互の信頼関係は確かなものとなり、維持されると考える。

その人間関係作りを促進するのが、「構成的グループエンカウンター」である。

3 「構成的グループエンカウンター」について

構成的グループエンカウンターとは、人数・時間・テーマなどの枠（構成）を与え、エンカウンター（本音と本音で交流できる親密な人間関係・体験）を、グループを通して行うことであり、人間関係づくりや自己発見をねらいとして生まれた手法の一つである。

(1) 「構成的グループエンカウンター」の展開

① 導入

始めに、本時のねらいと大まかな内容を説明する。心の準備と期待を持たせるためであり、簡単に済ませた方がよい。

② アイスブレイキングゲーム

リレーションづくりと心身の準備運動をする。自己紹介や誰もが楽しめるゲーム要素強いミニ・エクササイズである。

③ インストラクション

インストラクションとは、エクササイズの導入部分でそのねらい、内容、ルールを説明することである。生徒にわかりやすいように、教師がデモンストレーション（演示）することもある。

④ エクササイズ

触れ合う人間関係づくりを促す課題のことをいう。リーダー（教師）は、ルールが守られているか、ダメージを受けている生徒はいないかなどを確認し援助を行う。

⑤ シェアリング

シェアリングとは、エクササイズを通して、学んだこと考えたこと、感じたこと、気づいたことなどをふり返り、分かち合うことである。

⑥ 生徒の自己評価

ふり返り用紙に本時全体の自己評価を記入する。

⑦ まとめ

生徒の良かったこと、場合によって次に気をつけて欲しいことをフィードバックする。本時の目的について補足することもあるが、良かった行動等を発表する。元気のない生徒に気を配る。

(2) エクササイズの精選

学級の実態に即したエクササイズを選ぶとき、次の五つを考慮する。

① ねらいによる選択

エクササイズのねらいには五つある。

- 自己理解 ○他者理解
- 自己受容 ○信頼体験
- 感受性の促進

これらのねらいを学校・学年行事、学級活動等に関連させてエクササイズを選択。

② モチベーションによる選択

児童・生徒が初めて構成的グループエンカウンターを経験する場合、モチベーション（意欲）を高めるエクササイズから選んだ方がよい。始めは、ゲーム性の高いものから選び、モチベーションが高まるに従ってより深い内容へと進む。

③ レディネスによる選択

児童・生徒のレディネスの有無や度合いによってエクササイズを選ぶ。エクササイズのねらい・達成の度合いは生徒のレディネスによって決まることが多い。

- ④ リーダーの経験による選択
 構成的グループエンカウンターは、リーダーのデモンストレーションの仕方や自己開示の仕方によって、エクササイズの深まりに違いが出てくる。そこで、リーダーは自分の経験度や力量にあったエクササイズを選ぶ必要がある。

4 学校行事と「構成的グループエンカウンター」

(1) 学校行事の目的

学校行事の目的は、全校または学年という大きな集団での体験的な活動によって、学校生活の秩序を築き変化を与えるとともに、生徒の学校及び学年集団への所属感を深め、学校生活を充実、発展させ、集団生活における望ましい態度や協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てることである。この目的を達成するために、「儀式的行事」「学芸的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足(旅行)・集団宿泊的行事」「勤労生産・奉仕的行事」の5種類の行事がすべての学年において体験すべきものとして位置付けられている。

① 儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展望への動機付けとなるような活動を行うこと。

② 学芸的行事

平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲を一層高めるような活動を行うこと。

③ 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進などについて理解を深め、安全な行動と規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。

④ 旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

⑤ 勤労生産・奉仕的活動

勤労の尊さや創造することの喜びを体験し、職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

(2) 学校行事と「構成的グループエンカウンター」との関連

学校の一年間をふり返ってみると、学校生活の流れが学校行事に代表される特別活動を中心に動いている感がある。更に行事

へ対する生徒たちの関心やエネルギー集中度は高く、行事を終えるごとに生徒個人や学級が成長する度合いも確かなものがある。

「構成的グループエンカウンター」と学校行事は、「好ましい人間関係作り」という目的を担っている。行事を一つのエクササイズとして、「構成的グループエンカウンター」と関連させて行うことにより、相互補完的な成果が期待できる。

関連させるとは、行事に対する意識づけとしての事前エクササイズ、行事に取り組む際には、生徒間でトラブルが発生しやすいのでそれを自分たちで解決できる自助作用的なエクササイズ、そして、これまで反省や感想を書かすのみで終わっていたまとめとしてのエクササイズと3段階に分けてのやり方である。ただしまとめのエクササイズは、その行事の結果に応じて内容を変える工夫も必要である。(図1)

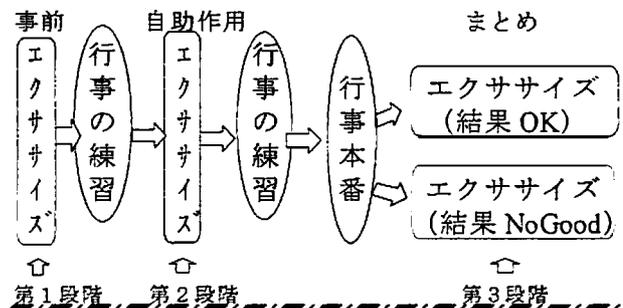


図1 学校行事と構成的グループエンカウンターの構成

(3) 学校行事における「構成的グループエンカウンター」指導計画書作成

上記の事に注意して、各学年毎に行事に関連した「構成的グループエンカウンター」全学年の指導計画書(表1)を作成し、この計画に基づいて第2学年の学級において授業を行い、研究目標、研究仮説を検証した。



表1 学校行事における「構成的グループエンカウンター」指導計画書 一 覧

【一年生】 1, 単発的な行事

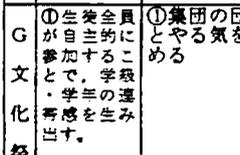
1) 行事をエクササイズとして活用

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内 容	種 類	時間	参考文献
儀式的行事 (学級開き) 	新入生のかたがたの気持ちや不安を解消し、仲間の輪を築く。	① X先生を知る イエス・ノー クイズ ② ネーム・ゲーム	ねらい 担任をよく知り、不安を軽減すると共に、担任の自己紹介をモデルとして自己紹介できるようにする。 ② ネーム・ゲーム 級友の名前や特徴を覚え、肯定的感情を持ち、和やかな人間関係をつくる。	4人組をつくり、担任が自分に關するクイズを読み上げる。クイズの答えをグループで相談して決める。全問終了後で担任はユーモアを交えて自己紹介しながら正解を発表する。 15名程のグループを作り輪になって座る。次にグループのリーダーを決める。ゲームは二段階に分かれて、最初は「私は〇〇です」と名前を名乗る。次に右隣の人は「私は〇〇です、私の隣の〇〇さんです」のように言い、自分の左隣の人の名前を次々と紹介する。二段階目は、「私がテニスが得意な〇〇です」と自分の特徴を加えて自己紹介する。以後は同じやり方で行う。最後はリーダーが、「テニスが好きだったのは誰でしょう」という質問をする。	自己理解	45分	エンカウンターで学級がかわる (P 96)
					他者理解	45分	教師と生徒の人間関係づくり (P26)

2) エクササイズを行事の前に入れる。

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内 容	種 類	時間	参考文献
儀式的行事 	1年間の学校生活をふり返り、年度への意欲を高める。	① 別れの花束 ② 無くて七癖	ねらい クラスメートとお互いに思っている意見を交換して自分の成長を確認し、新しい学年に向けての決意を固める。 一年間学級の中で培ってきた人間関係を土台に、お互いのいい点、改善が自己啓蒙へ導く。	目を閉じて「思い出に残った行事」「私を支えてくれた人」について、一年間をふり返りワークシートに記入する。手紙に贈る言葉を記入し、交換し合う。担任は敬語を紹介し、全員から回収した手紙に送る言葉を書き添えて返す。 渡されたアドバイス・カードを見て、友達にかかれたことと自分が書いた長所・短所が、「ジョバリの四つの悪」のどれに入るか考える。また、アドバイス・カードに書かれている友達から見た長所・短所と自分が書いたもの異同を考える。	感受性	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 194)
					自己理解	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 176)

2. 計画的に取り組むのが望ましい行事

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内 容	種 類	時間	参考文献
学芸的行事 合唱コンクール 	① 合唱を通して仲間意識を育み、豊かな人間性を養う。 ② 合唱を仕上げていく過程で、責任感や協調性を養う。 ③ 本場での発表を目標とする。	① 集団の団結とやる気を高める 共同絵画 ② 取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用) 月世界 ③ まとめ ① あなたに感謝 ② 君はどこかでヒーロー	ねらい 絵によるコミュニケーションを体験的に決まろう。表現力・身振り・手振りも自分であることを体験する。 個人の決定から合意によるグループ決定を通して、グループが意思決定をしていく時に生じる様々なことに気付く。	4人グループをつくり、リーダーを決める。非言語的表現を使いながらコミュニケーションしあい、一枚の絵を完成させる。 宇宙船が母船から10キロメートル離れた月面に不時着した。母船にたどり着くまでに必要性の高い物資に順位付けをする。個人決定とグループ決定の両方行う。	他者理解	30分	エンカウンターで学級がかわる③ (P 136)
					自己主張	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 112)
					自己開示 他者理解	45分	エンカウンターで学級がかわる② (P 168)
文化祭 	① 生徒全員が自主的に参加することで、学級の連帯感を生み出す。 ② 創造的な文化活動を見聞させる。 ③ まとめ	① 集団の団結とやる気を高める 身振り手振り「新聞紙の使い方」 川遊びプラン ① 私たちの得た宝物	ねらい 言葉を使わずに考えや気持ちを伝えたり受け取ったりする体験を通して、生徒相互の人間関係をより親密にする。 思い通りにならないときに投げやりになったり、攻撃的になったりせず、粘り強く自己力できるようにする。	6人グループを作りリーダーを決める。メンバーが新聞紙の使い方をできるだけたくさん考え、ジェスチャーでリーダーに示す。リーダーが記録し、グループで競う。 4人グループをつくり、ABCDの配役を決め、役割演習を始める。BCDはAの川遊びプランを、シナリオに添いながら反対する。担任の合図(笛)に従って、BCDは順次同意する。その後、役割を交代して同じことを繰り返す。	信頼体験	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 183)
					自己主張	45分	エンカウンターで学級がかわる (P 156)
					他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 144)

行事とねらい		効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献	
健康 安全 体育的 行事	G 校内陸上競技大会	①陸上競技に関する知識の向上。 ②陸上競技を通して、思いやりややる気、意欲を高める。 ③活動を通して、自主性を養い、行事を運営する力を高める。	①集団の団結とやる気高める	②あなたに感謝	学校の仲間と自己おめ合い、おめ合いの理解を深め、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなる行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場を想像する。カードを交換する。	自己理解	45分	エンカウンターで学級がかわる② (P 168)
					力を合わせると成功するという実感を持って、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	6名程の生徒が新聞紙の一面に10秒乗る。更に男女対抗で何名生徒が乗れるのかを競う。	信頼体験	45分	
					言葉を使わずに共同作業することの大切さを伝える。通して、友達と協力し、くみ取って喜ぶことを体験する。	グループでキーワードと絵を書く順番を相談する。大きな紙に全員が交替で絵を描き、一枚の絵を完成させる。見ている間は声を出さず、絵に対する感想をシートに記入する。完成した絵を見て気持ちの変化や感想を話し合う。	感受性	50分	エンカウンターで学級がかわる③ (P 78)
	G 校内駅伝競走大会	①生徒の積極的な参加を促し、学年・学級を学問・運動・文化の面で向上させ、力の付いた生徒の育成。 ②持久力と向上心、意欲を高める。	①集団の団結とやる気高める	あなたに感謝	学校の仲間と自己おめ合い、おめ合いの理解を深め、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなる行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場を想像する。カードを交換する。	自己理解	45分	エンカウンターで学級がかわる② (P 168)
					力を合わせると成功するという実感を持って、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	6名程の生徒が新聞紙の一面に10秒乗る。更に男女対抗で何名生徒が乗れるのかを競う。	信頼体験	45分	
					言葉を使わずに共同作業することの大切さを伝える。通して、友達と協力し、くみ取って喜ぶことを体験する。	グループでキーワードと絵を書く順番を相談する。大きな紙に全員が交替で絵を描き、一枚の絵を完成させる。見ている間は声を出さず、絵に対する感想をシートに記入する。完成した絵を見て気持ちの変化や感想を話し合う。	感受性	50分	エンカウンターで学級がかわる③ (P 78)
	G 運動会	①運動会の楽しさや喜び、達成感を味わい、意欲を高める。 ②体育的学習の成果を自信を持って発表し、達成感を味わう。 ③取り組みを通して、自主性を高める。	①集団の団結とやる気高める	私たちの体育祭 How Much?	体育祭で自分は何に価値を置くかを考え、自己主張する勇氣や表現能力を高める。	体育祭の価値が大切だと思うものの価値を決め、各自シートに書き入れる。グループで話し合い、グループとして価値を決める。1人の持ち金を百万として何を買うか、何人かで決め、ぐるぐるで百万になるように競合。代表者が発表する。	自己主張 他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる③ (P 196)
					力を合わせると成功するという実感を持って、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	6名程の生徒が新聞紙の一面に10秒乗る。更に男女対抗で何名生徒が乗れるのかを競う。	信頼体験	45分	
					言葉を使わずに共同作業することの大切さを伝える。通して、友達と協力し、くみ取って喜ぶことを体験する。	グループでキーワードと絵を書く順番を相談する。大きな紙に全員が交替で絵を描き、一枚の絵を完成させる。見ている間は声を出さず、絵に対する感想をシートに記入する。完成した絵を見て気持ちの変化や感想を話し合う。	感受性	50分	エンカウンターで学級がかわる③ (P 78)
					行事が終了したあとの関係性を活かしたり、賞状した生徒からのフィードバックで自己満足を得る。	行事の前に「どのような動きをする人が行事を盛り上げるのかについて討論し、思いつくことを短冊に書き出す。行事終了後に、証等で相談しふさわしい動きをした人にその短冊を手渡す	他者理解	45分	エンカウンターで学級がかわる (P 98)
G 旅行集団宿泊的行事	①見聞を広げ、自然や文化等に集団生活を送る。	①集団の団結とやる気高める	宝さがし	みんなが対等な関係で一人一人が欠かぬこと、課題を自分で決め、分や相手の言動・感情について学ぶ。	6人組で宝島の地図を完成させる。 ①各自に渡された異なる情報紙をもとに、宝島の地図を作る。 ②情報紙を読み上げていいが、見せ合ったり書き写してはいけない。 ③情報紙にある質問に最後に答える。証ごとに結果発表する。	他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる③ (P 186)	
				友達の新しい一面に触れ、お互いの人間関係を深める。	遠足の証ごとにグループを作る。証長を中心に旅行中の楽しかったことなどをまとめ、証長が発表する。その後、証員各自が他者の意外な良い面を紙に記入し、裏に折って見えないように次の人へ回す。全員が一斉に本人へ手渡す。	他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 166)	

【二年生】

1. 単発的な行事

1) 行事をエクササイズとして活用

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献
儀 式 的 行 事	<p>①新学年としての自覚を持たせ、望ましい生活意欲を高める。</p> 	<p>①PR大作戦</p>	生徒の肯定的な面を友人から学級に知らせる。	前年度同じ学級だった人と4~5名のグループを作る。1人につき3つほどその人の持ち味やエピソード等を出し合う。その後全員の前でグループごとに「〇〇君/さんのPR」をする。その後更に質問に入る。	他者理解	45分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 128)
			<p>②探偵ごっこ</p>	これまであまり話のない話しを同じ生徒同士と交流を促す。また、お互いの親近感を互いこととてくらしを解きあせ	10~15問程度の質問事項を準備する。ペアをつくり、じゃんけんで勝った人から質問をして「はい」か「いいえ」で答える。「はい」がでてきたら、交換。次はペアを変えて繰り返す。たくさん人の名前があるととてもよい。	他者理解	45分

2) エクササイズを行事の前に入れる。

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献
儀 式 的 行 事	<p>1年間の学校生活をふり振り返り、新学年への生活意欲の高揚を図る。</p> 	<p>①別れの花束</p>	クラスメートとお互いに思っている意見を交換して自分の成長を確認し、新しい学年に向けての決意を固める。	目を閉じて「思い出に残った行事」「私を支えてくれた人」について、一年間をふり振り返りワークシートに記入する。手紙に贈る言葉を記入し、交換し合う。担任は挨拶を紹介し、全員から回収した手紙に送る言葉を書き添えて返却する。	感受性	50分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 194)
			<p>②無くて七癖</p>	一年間学級の中で培ってきた人間関係の土台に、お互いのいい点、改善点を述べ合いながら、いっそうの自己啓発へ導く。	渡されたアドバイス・カードを見て、友達にかかれたことと自分が書いた長所・短所が、「ジョバリの四つ目の」のどれに入るか考える。また、アドバイス・カードに書かれている友達から見た長所・短所と自分が書いたものとの異同を考える。	自己理解	50分

2. 計画的に取り組むのが望ましい行事

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献		
学 芸 的 行 事	<p>①合唱を通して情緒を育成し、豊かな人間性を養う。</p> <p>②合唱を仕上げていく過程で、責任感や協調性を養う。</p> <p>③本格的な演奏会での発表を体験することによりステージマナーや観客マナーを体験させる</p> 	<p>共同コラージュ</p>	正直な自分たちの気持ちをコラージュによって表現し、お互いがそれを知った上で、合唱コンクールを成功させるための方法を考える。	合唱コンクールのパートをもとにグループを作る。曲に関するテーマを示す。コラージュをグループ毎に作成し感想を話し合う。コラージュを発表・展示する。	自己理解	50分 × 2回	エンカウ ンターで 学級が かわる③ (P 192)		
			<p>②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用)</p>	<p>月世界</p>	個人の決定から合意によるグループ決定を通して、グループが意志決定をしていく時に生じる様々なことに気付く。	宇宙船が母船から10キロメートル離れた月面に不時着した。母船にたどり着くまでに必要性の高い物資に順位付けをする。個人決定とグループ決定の両方行う。	自己主張	50分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 112)
			<p>③まとめ</p>	<p>①あなたに感謝</p>	学級の仲間と自己開示をしあい、お互いの理解を深めるとともに、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなるような行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場面を想像する。カードを交換する。	自己開示 他者理解	45分	エンカウ ンターで 学級が かわる② (P 168)
				<p>②君はどこかでヒーロー</p>	行事が終了したあと、勝敗に関係なく人のために活躍したり、貢献した生徒が、他の生徒からのフィードバックで自己有用感を得る。	行事の前に「どのような働きをする人が行事を盛り上げるのかについて討論し、思いつくことを短冊に書き出す。行事終了後に、班等で相談しふさわしい働きをした人にその短冊を手渡す。	他者理解	45分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 98)
G 文 化 祭	<p>①生徒全員が自主的に参加することで、学級・学年の連帯感を生み出す。</p> <p>②創造的な文化活動を発展させる契機にする。</p>	<p>①集団の団結とやる気高める</p>	<p>振り手振り「新型紙の使い方」</p>	言葉を使わずに考えや気持ちを伝えたり受け取ったりする体験を通して、生徒相互の人間関係をより親密にする。	6人グループを作りリーダーを決める。メンバーが新型紙の使い方をできるだけたくさん考え、ジュスチャードでリーダーに示す。リーダーが記録し、グループで競う。	信頼体験	50分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 183)	
		<p>②取り組み最中(トラブルに対する生徒自助作用)</p>	<p>遊びプラン</p>	思い通りにならないときに投げやりになったり、攻撃的になったりせず、粘り強く自己実現に向けて努力できるようにする。	4人グループをつくり、A B C Dの役割を決め、役割演習を始める。BCDはAの川遊びプランを、シナリオに添いながら反対する。それを合図(笛)に従って、BCDは順次同意する。その後、役割を交代して同じことを繰り返す。	自己主張	45分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 156)	
		<p>③まとめ</p>	<p>①私たちの得た宝物</p>	文化祭で、各自がどのような役割を担い果たしたかを確認し、感動体験を分かち合い、次のステップとする。	全員が円座する。配布された短冊「君がいたおかげで・・・」の文章を完成する。それを隣へ回して行儀を通す。一通り回ったら、各自が自分の短冊を受け取り目を通す。	他者理解	50分	エンカウ ンターで 学級が かわる (P 144)	

行事とねらい	効果	ミクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献	
		②あなたに感謝	学年の仲間と自己開示をし合い、お互いの理解を深め、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなる行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場面を想像する。カードを交換する。	自己理解	45分	エンカウンターでわかる② (P 168)	
健康 安全 体育的 行	G 校内陸上競技大会	①陸上競技に関する知識と技能の向上。 ②競技を通して思いやりと協力を養う。 ③活動を通して自主性・創造性を養い、行事を運営する自治能力を高める。	①集団の団結とやる気を高める	団結の木	力を合わせると成功するという感動を体で感じることで、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	信頼体験	45分	
		②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用)	私の後をお願い!	言葉を使わずに共通の気持ちで、お互いをサポートする。友達の気持ちをくみ取り、また、くみ取ってもらえた喜びを体験する。	グループでキーワードと絵を書く順番を相談する。大きな紙に全員が交替で絵を描き、一枚の絵を完成させる。見ている間は声を出さず、絵に対する感想をシートに記入する。完成した絵を見て気持ちの気化や感想を話し合う。	感受性	50分	エンカウンターでわかる④ (P 78)
	G 校内駅伝競走大会	①生徒の積極的な参加を目指し、学年・学年間の団結を深める。 ②持久力の向上と協力を取りこむ態度の育成。	③まとめ	あなたに感謝	学年の仲間と自己開示をし合い、お互いの理解を深め、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	自己理解	45分	エンカウンターでわかる② (P 168)
		①運動会の楽しさを味わい、達成感を深める。 ②体育的学習の成果と自信を味わわせる。 ③取り組みを通して自治能力を高める。	①集団の団結とやる気を高める	私たちの体育祭 How Much?	体育祭で自分は何をやるかを考え、自己主張する勇気や表現能力を養い、これを学ぶ。	自己主張 他者理解	50分	エンカウンターでわかる③ (P 196)
G 運動会	①運動会の楽しさを味わい、達成感を深める。 ②体育的学習の成果と自信を味わわせる。 ③取り組みを通して自治能力を高める。	②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用及び団結力・やる気)の持続)	①団結の木	力を合わせると成功するという感動を体で感じることで、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	信頼体験	45分		
		②私の後をお願い!		言葉を使わずに共通の気持ちで、お互いをサポートする。友達の気持ちをくみ取り、また、くみ取ってもらえた喜びを体験する。	感受性	50分	エンカウンターでわかる④ (P 78)	
		③まとめ	①君はどこかでヒーロー	行事が終了したあと、勝敗に関係なく人々のために活動した生徒が、他の生徒からのフィードバックで自己有用感を得る。	行事の前に「どのような働きをする人が行事を盛り上げるのかについて討論し、思いつくことを短冊に書き出す。行事終了後に、班等で相談しふさわしい働きをした人にその短冊を手渡す	他者理解	45分	エンカウンターでわかる (P 98)
			②私たちの得た宝物	運動会で、各自がどのような役割を担ったかを確認し、感動体験を分かち合い、次のステップとする。	全員が同意する。配布された短冊「君がいたおかげで・・・」の文章を完成させる。それを箱へ入れ、返して行く。一通り戻ったら、各自が自分の短冊を受け取り目を通す。	他者理解	50分	エンカウンターでわかる (P 144)
G 修学旅行	①広い知識と豊かな心を養い、健康・安全の確保を心がけ、充実した修学旅行とする。 ②全行程の決まらずに臨機応変に対応できるように準備する。 ③教師や友達の思いと出会う喜びと感動を共に味わう。	①集団の団結とやる気を高める	宝さがし	みんなが対等な関係で一人一人の個性が活きるように決める。課題解決の過程における自分や相手の言動・感情について学び取る。	6人組で宝島の地図を完成させる。 ①各自に渡された異なる情報紙をもとに、宝島の地図を作る。 ②情報紙は読み上げてもいいが、見せ合ったり書き写してはいけない。 ③情報紙にある質問に最後に答える。班ごとに結果発表する。	他者理解	50分	エンカウンターでわかる④ (P 186)
		②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用及び団結力・やる気)の持続)	月世界	個人によるグループ決定を通して、グループが意思決定をしていく時に気づく。	宇宙船が母船から10キロメートル離れた月面に不時着した。母船にたどり着くまでに必要性の高い物資に順位付けをする。個人決定とグループ決定の両方行う。	自己主張	50分	エンカウンターでわかる (P 112)
		③まとめ	意外なあなたを発見	友達との新しい出会いの人間関係を深める。	修学旅行の班ごとにグループを作る。班長を中心に旅行中の楽しかったことなどをまとめ、班長が発表する。その後、班員各自が他者の意外な良い面を用紙に記入し、裏に折って見えないように次の人へ回す。全員が一斉に本人へ手渡す。	他者理解	50分	エンカウンターでわかる (P 166)



【三年生】

1. 単発的な行事

1) 行事をエクササイズとして活用

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献
儀式的行事 G 始業式	新学年として、新学年の自覚を高め、望ましい生活態度を高める。 	①PR大作戦	生徒の肯定的な面を友人から学校に知らせる。	前年度同じ学級だった人と4～5名のグループを作る。1人につき3つほどその人の持ち味やエピソード等を出し合う。その後全員の前でグループごとに「〇〇君/さんのPR」をする。その後更に質問に入る。	他者理解	45分	エンカウンターで学級がかわる (P 128)
			②探偵ごっこ	これまでのあまのこを交わした生徒の交流を図る。また、互いの最近感を互いことと交換しあう。	10～15程度程度の質問事項を準備する。ペアをつくり、じゃんけんして勝った人から質問をして「はい」か「いいえ」で答える。「はい」がでてきたら、交換。次はペアを変えて繰り返す。たくさんの人の名前があるととてもよい。	他者理解	45分

2) エクササイズを行事の前に入れる。

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献
儀式的行事 G 卒業式	卒業生一人一人に卒業の喜びを新たな決意をもたせる。	①別れの花束 	クラスメートとお互いに思っている意見を交換して自分の成長を確認し、新しい学生に向けての決意を固める。	目を閉じて「思い出に残った行事」「私を支えてくれた人」について、一年間をふり振り返りワークシートに記入する。手紙に贈る言葉を記入し、交換し合う。担任は敬語を紹介し、全員から回収した手紙に送る言葉を書き添えて返却する。	感受性	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 194)

2. 計画的に取り組むのが望ましい行事

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献	
学芸的行事 G 合唱コンクール	①合唱を通して情緒を育成し、豊かな人間性を養う。 ②合唱を仕上げていく過程で、責任感や協調性を養う。 ③本格的な場所での発表を体験することによりステージマナーや鑑賞マナーを体得させる。 	①集団の団結とやる気を高める 共同カラーージュ	正確な自分たちの気持ちをカラーージュによって表現し、お互いがそれを知った上で、合唱コンクールを成功させるための方法を考える。	合唱コンクールのパートをもとにグループを作る。当に使用するテーマを示す。カラーージュをグループ毎に作成し感想を話し合う。カラーージュを発表・展示する。 練習過程で気持ちの変化があったら手直しする。ボードメッセージを貼る。	自己理解	50分×2回	エンカウンターで学級がかわる③ (P 192)	
			②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用)	個人決定から含意によるグループ決定を通して、グループが意志決定をしていく時に生じる様々なことに気付く。	字音船が曇船から10キロメートル離れた月面に不時着した。母船にたどり着くまでに必要性の高い物資に順位付けをする。個人決定とグループ決定の両方行う。	自己主張	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 112)
			③まとめ	①あなたに感謝 学級の仲間と自己開示をしあい、お互いの理解を深めるとともに、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなるような行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場面を想像する。カードを交換する。	自己開示 他者理解	45分	エンカウンターで学級がかわる② (P 168)
			④まとめ	②君はどこかでヒーロー 行事が終了したあと、導教に関係なく人のために活躍したり、貢献した生徒が、他の生徒からのフィードバックで自己有用感を得る。	行事の前に「どのような働きをする人が行事を盛り上げるのかについて討論し、思いつくことを短冊に書き出す。行事終了後に、短冊で相談しふさわしい働きをした人にその短冊を手渡す。	他者理解	45分	エンカウンターで学級がかわる (P 98)
G 文化祭	①生徒全員が自主的に参加することで、学級・学年の連帯感を生み出す。 ②創造的な文化活動を発想させる環境にする。 	①集団の団結とやる気を高める 振り手振り「新聞紙の使い方」	言葉を使わずに考えや気持ちを伝えたり受け取ったりする体験を通して、生徒相互の人間関係をより親密にする。	6人グループを作りリーダーを決める。メンバーが新聞紙の使い方をできるだけたくさん考え、ジェスチャーでリーダーに示す。リーダーが記録し、グループで競う。	信頼体験	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 183)	
			②取り組み最中(トラブルに対する生徒自助作用)	思い通りにならないときに投げやりになったり、攻撃的になったりせず、粘り強く自己実現に向けて努力できるようにする。	4人グループをつくり、ABCDの配役を決め、役割演技を始める。BCDはAの川遊びプランを、シナリオに添いながら反対する。担任の合図(笛)に従って、BCDは順次同意する。その後、役割を交代して同じことを繰り返す。	自己主張	45分	エンカウンターで学級がかわる (P 156)
			③まとめ	①私たちの得た宝物 文化祭で、各自がどのような役割を担い果たしたかを確認し、感動体験を分かち合い、次のステップとする。	全員が閉眼する。配布された短冊「君がいたおかげで・・・」の文章を完成する。それを箱へ箱へと回して行く。一通り回ったら、各自が自分の短冊を受け取り目を通す。	他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる (P 144)
④まとめ	②あなたに感謝 学級の仲間と自己開示をしあい、お互いの理解を深めるとともに、仲間の思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなる行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場面を想像する。カードを交換する。	自己理解	45分	エンカウンターで学級がかわる② (P 168)			

行事とねらい	効果	エクササイズ	ねらい	内容	種類	時間	参考文献		
健康 安全 体育的 行事	G 校内陸上競技大会	①陸上競技に関する知識と技能の向上。 ②競技を通して、思いやりと協力を養う。 ③活動を通して自主性を養い、行事を運営する自治能力を高める。	①集団の団結とやる気を高める	①団結の木 力を合わせると成功するということを実感を体で感じることで、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	6名程度の生徒が新聞紙の一面に10秒乗る。更に男女対抗で何名生徒が乗れるのかを競う。	信頼体験	45分		
			②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用)	私の後をお願い!	音楽を使わずに共通作業することを通して、友達を頼ることを学ぶ。また、くみ取ってもらえた喜びを体験する。	グループでキーワードと絵を書く順番を相談する。大きな紙に全員が交替で絵を描き、一枚の絵を完成させる。見ている間は声を出さず、絵に対する感想をシートに記入する。完成した絵を見て気持ちの変化や感想を話し合う。	感受性	50分	エンカウンターで学級がかわる③(P 78)
			③まとめ	あなたに感謝	学級の仲間と自己開示をし合い、お互いの理解を深めるとともに、仲間思いの思いやりや優しさを今後の行動のモデルとする。	全員で大きな輪になって座る。「あなたに感謝カード」に記入。1人ずつ順にカードを読み上げる。自分のモデルとなる行動を選び、それを自分がしてあげて喜ばれる場面を想像する。カードを交換する。	自己理解	45分	エンカウンターで学級がかわる②(P 168)
G 運動会	①運動会の楽しさを味わい、達成感を深める。 ②体育的学習の成果を表現する自信と充実感を味わわせる。 ③取り組みを通して自主的な力を高める。	①集団の団結とやる気を高める	私たちの体育祭 How Much?	体育祭で自分は何を価値を置きたいかを考えて、自己主張する勇気や表現能力を養い、他者を理解することを学ぶ。	体育祭の価値が大変だと思えるものの価値を決め、各自シートに書き入れる。グループで話し合い、グループとして価値を決める。1人の持ち金を百万として何を買いか個人で決め、グループで百万になるように買物。代表者が発表する。	自己主張 他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる③(P 196)	
		②取り組み最中(トラブルに対する生徒の自助作用及び団結力・やる気の持続)	①団結の木 力を合わせると成功するということを実感を体で感じることで、信頼関係を深め、行事に対する意欲を高める。	6名程度の生徒が新聞紙の一面に10秒乗る。更に男女対抗で何名生徒が乗れるのかを競う。	信頼体験	45分			
		③まとめ	①君はどこかでヒーロー ②私たちの得た宝物	行事が終了したあと、勝敗に関係なく人のために活躍した生徒が、他の生徒からのフィードバックで自己有用感を得る。 運動会で、各自がどのような役割を担い果たしたかを確認し、感動体験を分かち合い、次のステップとする。	行事の前に「どのような働きをする人が行事を盛り上げるのかについて討論し、思いつくことを短冊に書き出す。行事終了後に、班等で相談しふさわしい働きをした人にその短冊を手渡す。 全員が円座する。配布された短冊「着がいたおかげで・・・」の文章を完成する。それを箱へ戻へと回して行く。一通り回ったら、各自が自分の短冊を受け取り目を通す。	他者理解	45分	エンカウンターで学級がかわる(P 98)	
旅行 集団 宿泊的 行事	G 遠足	①見聞を広げ、自然や文化等に親しみ、集団生活を体験する。	①集団の団結とやる気を高める	宝さがし みんなが対等な関係で一人一人が不可欠であることに気付く。課題解決の過程における自分や相手の感情・感情について学び取る。	6人組で宝島の地区を完成させる。 ①各自に渡された異なる情報紙をもとに、宝島の地区を作る。 ②情報紙は読み上げてもいいが、見せ合ったり書き写してはいけない。 ③情報紙にある質問に最後に答える。正ごとに結果発表する。	他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる③(P 186)	
			②まとめ	意外なあなたを発見	友達の新しい一面に触れ、お互いの人間関係を深める。	遠足の正ごとにグループを作る。班長を中心に旅行中の楽しかったことなどをまとめ、班長が発表する。その後、班長各自が他者の意外な良い面を用紙に記入し、裏に折って見えないように次の人へ回す。全員が一斉に本人へ手渡す。	他者理解	50分	エンカウンターで学級がかわる(P 166)

5 生徒理解と学級の把握 (アンケート)

教師にとって、日々観察している範囲で全ての生徒の状況を把握することはできない。また生徒の言動は、心と一致していない場合や教師の思いこみもある。生徒の情報を得ることは、生徒個人をよく知ることや学級の状態を知る大きな手がかりとなる。そこで以下に述べる二つのアンケートを用いて把握することにした。

(1) 「Q-U」アンケートについて

「Q-U」アンケートは、座標平面上の点で生徒の位置を示し、学級全体の様子や傾向、生徒の置かれている状況を把握することができる。

学級満足度尺度プロット図(図2)は、生徒が学級にどれくらい満足しているのかを知る事ができる調査である。学級に居場所がある(承認得点:縦軸)といじめなどの侵害行為をうけていないか(被侵害得点:横軸)の2つのグループの得点合計を組み合わせ、交差する点によって四つの群に分けられる。

① 学級生活満足群

学級で存在感があり、いじめや悪ふざけを受けている可能性は低い生徒。

② 非承認群

いじめや悪ふざけを受けている可能性は低いが、認められる事が少なく、自主的に活動する事が少ない可能性がある。

③ 侵害行為認知群

自主的に活動しているが、少し自己中心的で他の生徒とトラブルを起こしている可能性が高い生徒。

④ 学校生活不満足群

学校内でいじめや悪ふざけを受けたり、不安傾向が強い可能性が高い生徒。その中でもさらに個別の援助を必要とする生徒を要支援群とする。

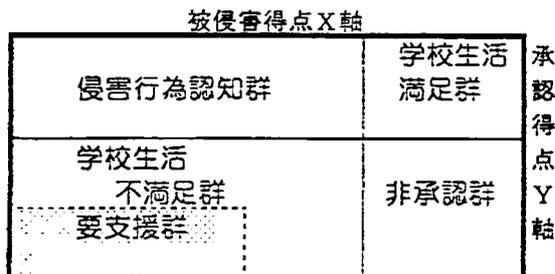


図2 学級満足度尺度プロット図

学校生活意欲プロフィール(図3)は、「友人関係」「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」「進路意識」の5つの領域から質問が成り、生徒がどの関係や意欲に対して苦手意識を持っているのか、それぞれの領域のバランス関係を見ることができる。

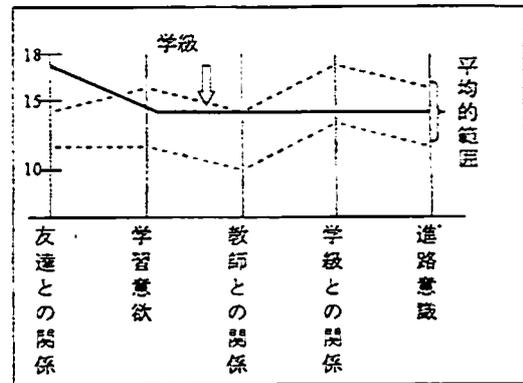


図3 学校生活意欲プロフィール

(2) 自作アンケート

より詳しいデータを収集するため、I) 自分自身について II) 学級について III) 行事について IV) あなたが望む学級とは(記述形式)という4つに分けて細かく質問項目を設定し行った。I)では、友達に関する質問として実際に何人友達がいるか、どのような関係なのか、友達といるときに感じている事を中心に問い、学級への関わり方や自分の性格を分析する質問も加えた。II)では、この学級がどんな学級なのか、学級の中で日々感じていることを、III)ではそれぞれの行事への気持ちを聞いた。

VII 研究実践

1 生徒理解と学級の把握のアンケート調査の結果と考察

(1) 「Q-U」アンケート(11月10日実施)の結果と考察

① 学級満足度尺度(図4・表2)

1人ひとりの生徒が学級や友達に対してどのような感じ方・考え方をしているかを確認することにより生徒の目を通して、現在の学級の状態が把握できる。

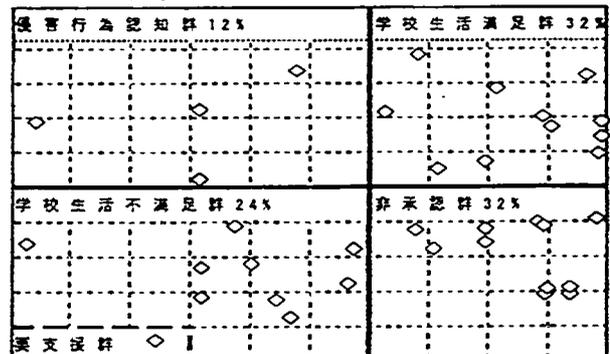


図4 学級満足度尺度プロット図

表2 学級満足度尺度プロット図の数値

	学級満足群	非承認群	侵害行為認知群	学校不満足群
学級	32%	32%↑	12%	24%
全国	35%	15%	17%	33%

《診断コメント》

非承認群に属する生徒が多い。非承認群に属する生徒の多い集団では、生徒間のトラブルは少ないものの、生徒たちが自分の気持ちを表現できなかつたり、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱かつたりする傾向が見られる。要支援群に属し学級内で孤立し友達からのサポートも得られていないと感じている生徒や、侵害得点が高いじめや悪ふざけを受けていると強く感じている生徒がいる。これらの生徒に対する積極的な働きかけが必要である。

② 学校生活意欲プロフィール(図5・表3)

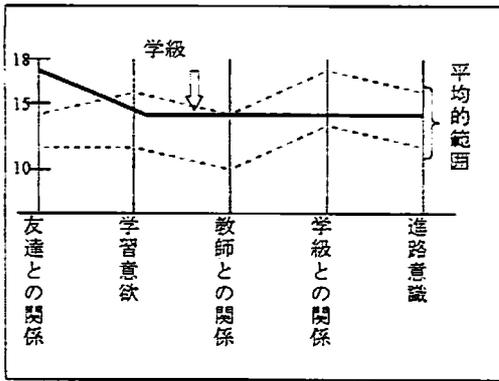


図5 学校生活意欲プロフィール

表3 学校生活意欲プロフィールの数値

	友達	学習	教師	学級	進路 (%)
学級	16.9	14.2	13.9	13.9	13.8
全国	13.0	13.6	12.2	14.5	14.0

《診断コメント》

友達との関係は、学校生活意欲の重要な観点になっている。本校は部活動が盛んであるため、友達関係においては、好位置を示していると思われる。反面、学級内での関係づくりに多少支障が出ていることも考えられる。

③ 20の質問の中から、信頼関係に関する項目を挙げてみる。

1) 人と仲良くする方法を知っている。

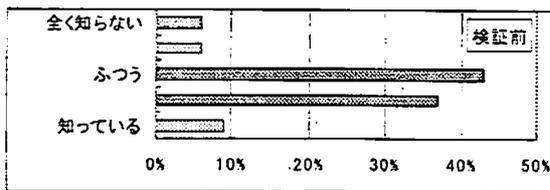


図6 人と仲良くする方法を知っている。

2) 友人との付き合いは自分の成長にとって大切だ。

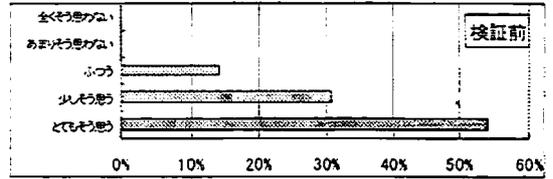


図7 友人との付き合いは自分の成長にとって大切だ。

3) 仲の良いクラスだと思う。

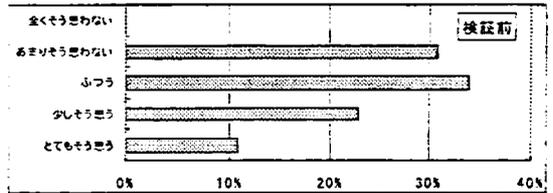


図8 仲の良いクラスだと思う。

4) クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。

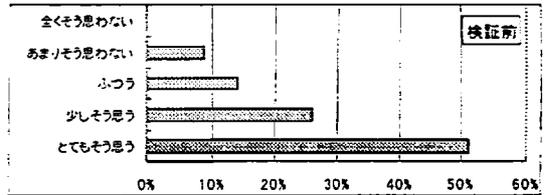


図9 クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。

《診断コメント》

「友達との付き合い方は、自分の成長にとって大切だと思う」「気軽に話せる友達がいる」など友人関係の面で望ましい感情を持っている生徒が多い。しかし学級に関しては、「男女仲の良いクラスにしたい」「何でも話せる学級にしたい」と思っている生徒が多く見られた。

(2) 自作アンケート(10月28日実施)の結果と考察

① 友人関係について

◇表4-1 友達がどのくらいいるか。

学級と学年の比較 (%)

		全体	男子	女子
学級	10人以上	31	53	11
	2~5人くらい	53	35	69
	1人	3	6	0
	全くいない	14	6	21
学年	10人以上	64	65	64
	2~5人くらい	36	36	37
	1人	0	0	0
	ない	0	0	0

表4-1は、学級や学年全体でそれぞれ友達が何人いるかという質問の結果であ

る。学級に2人～5人くらいいると回答した生徒が全体の53%と一番多く、31%の生徒が10人以上いると回答している。

この結果より、約8割の生徒は、学校生活や普段の生活で関わりがある友達がいることがわかる。しかし2割の生徒が友人関係作りがうまく行えず、援助が必要であることがわかる。

学年全体では、「全くいない」「1人い

る」共に0%という安堵した結果になった。中学2年生になると部活動や昨年度までの友人関係がある程度確立されているため、なかなか新しい友人関係を築くことはできない。進級し新しい学級になり半年経過しても、グループ化、グループの人以外を受け付けない雰囲気強いことが推測される。

② 友人とのつきあい方

◇表4-2 友達とのつきあい方 (%)

	いない	1人	2・3人	5人	10人以上
トイレと一緒にいく友達	8	3	47	8	33
一緒にいるとホッとできる友達	6	3	33	22	36
放課後一緒に遊ぶ友達	6	3	19	28	45
忘れ物をしたとき、貸し借りをする友達	3	3	31	19	44
成績や運動でライバルになる友達	3	6	36	28	27
班活動や遠足などで同じ班になりたい友達	3	0	19	19	58
休日にショッピングへ行く友達	3	0	19	36	42
机を隣同士にしたい友達	3	3	33	17	44
テストの範囲や宿題を聞く友達	0	6	31	11	53

○は最大値

次に、対人関係についてみていくと表4-2のような結果がみられた。

いない友達のタイプを高い方からみると、トイレと一緒にいく友達、一緒にいるとホッとできる友達、放課後一緒に遊ぶ友達の順である。

トイレへ1人で行く生徒の割合と表4-1の友達が全くいないと答えた割合を比較してみるとその差が-6あり、そのことより1・2人は声を掛け、一緒に行ってくれる友達がいることがわかる。また学級の76%の生徒が部活動に所属しているため、放課後も部活動関係の友達との遊びが多いであろうと推測される。

一緒にいるとホッとできる友達がいないと回答した生徒が男子生徒のみという結果は、どの学級よりも目立って仲良く遊ぶ姿が見られる状況で以外である。よって望まないつきあい方を強いられ、苦痛に感じていることもあると思われる。

③ 友達と一緒にいて、何を感じるか。

◇表4-3友達と一緒にいて、何を感じるか。 (%)

	とてもある	かなりある	あまりない	ぜんぜんない
大勢の友達といると仲間はずれにあったように感じる	3	6	61	31
自分がどう見られているか気になる	11	22	56	11
友達のいいなりになってしまう	0	8	58	33
友達から頼まれると断れない自分が嫌だ	6	8	56	31
友達といるとき、自分が無理をしていると感じる	6	11	44	39
みんなの前では、自分の思っていることをうまく言えない	8	14	39	39
友達に気に入られたいと思う	17	25	44	14
友達の話を知りたいと思う	31	44	19	6

表4-3は、友達と一緒にいるときの気持ちに関する結果である。

「とてもある」と「かなりある」を足した数値をみると、友達の話を知りたいと思うが75%とトップで、積極的に友達と関わろうとしていることがわかる。

またみんなの前では自分の思っていることをうまく言えないが22%、友達といるとき、自

分が無理をしていると感じるが 17%と、5人に1人の生徒が仮面をかぶって友人関係を結んでいることがわかる。

④ 行事への取り組み

◇表4-4 行事に対して一生懸命取り組んでいますか。(%)

	とてもある	わりとある	あまりない	ぜんぜんない
全体	42	47	11	0
男子	29	53	18	0
女子	53	42	5	0

表4-4は、行事への取り組みに対する意識に関する結果である。男子の82%に対して女子の意識の高さがはっきりとでた。行事への取り組みにおいても、女子が率先して学級の雰囲気盛り上げ、全体的にリーダー性を発揮している事からも分かる。

⑤ 自分の性格について

◇表4-5 性格について(「とてもそうだ」/「そうだ」の合計) (%)

	全体	男子	女子
運動神経が優れている	27	36	21
異性に好まれるタイプ	9	12	5
仲間から信頼されている	33	24	42
成績がよい	22	30	16
クラスの人気者	6	6	5
友達がたくさんいる	70	64	73
ジョークをよく言う	11	6	16
少しツッパっている	3	0	5
小心者	24	26	25
几帳面	36	36	37
仕切るタイプ	17	6	27
やさしい	28	30	27
意志が強い	41	42	41
人目を気にする	53	42	64
自分のタイプが分からない	3	6	0

表4-5は、自分の性格について「とてもそう」「そうだ」と回答した生徒の割合を足したものである。この結果より、目立ちたがり屋はあまりおらず、比較的グループで行動する集団タイプの学級だと推測できる。

几帳面や仕切るタイプの、いわゆるリーダーに成り得る生徒も存在している。

意志が強いと回答した生徒が41%、優しいタイプだと回答した生徒が28%というアンケートの結果より、友達に自分の気持ちをハッキリ言うことができるが、優しい言葉がけや行動が取るができない生徒が多いことが分かる。

⑥ どんな学級ですか。

◇図10-1 あなたの学級はどんな学級ですか (%)

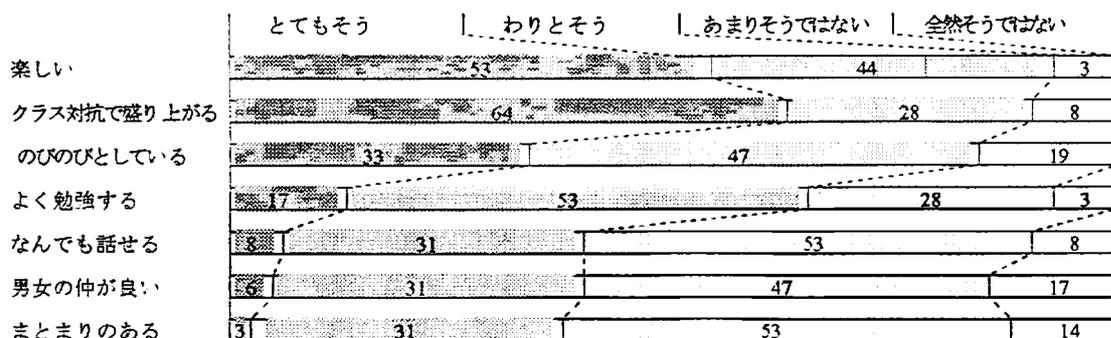
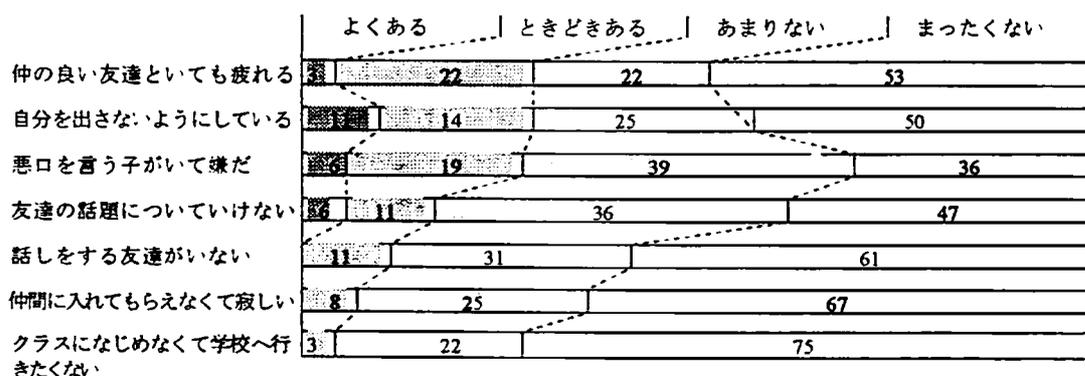


図 10-1 は、学級の雰囲気肯定率の高い順に並べている。楽しいクラスが 97% と最も高く、クラス対抗の時に盛り上がるクラスが 92%、のびのびとしているクラスが 80% に達している。しかしなんでも話せるクラス、男女の仲がよいクラス、まとまりがあるクラスの割合は 4 割を下回っている。

この結果より、日常では自己開示ができず、男女が殆ど会話をすることないが、行事やイベントにおいては、協力してやろうという雰囲気がわかる。しかし、それが終わると、元のまとまりがない学級に戻ってしまっているように感じられる。

⑦ 友人関係で困ったこと

◇図10-2 友人関係で困ったこと。(%)



学級の生徒同士の人間関係で困った経験の頻度を尋ねた結果が図 10-2 である。

全体でみれば、級友とのトラブルに悩んでいる生徒の割合は低い。学級になじめず不登校傾向を示す生徒は 3% (怠学傾向でアンケート未検査生徒を含むと 6%) である。さらに 1 割の生徒が、話しをする友達がいない、仲間に入れてもらえなくて寂しい、と感じるなど学級内の友人関係で悩んでいることが分かる。

この他、クラスの中で自分を出さないようにしている、仲の良い友達といても疲れるという項目に対して「ある」と回答した生徒が 2 割以上いることが注目される。

5 人に 1 人が友人関係において演技をすることに気疲れしていることがわかる。これは「自己防衛的なつきあい」の特徴を示している。この原因は社会環境や友人関係の体験不足などによるものだと推測される。

また学級内の人間関係からくるものとして友人集団で働く同調による見えない圧力や異質排除の影響も大きいと思われる。このことは、友人の悪口をいう子が多く、嫌な気持ちになる、友人の話題についていけないと悩む割合が 2 割近くに達していることから推測できる。

⑧ 楽しい行事は何ですか。

◇図10-3 楽しい行事は何ですか。(%)

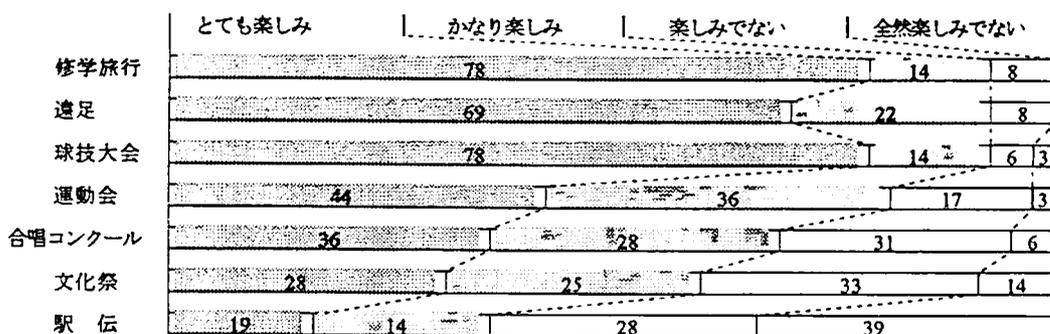


図 10-3 は、生徒が楽しいと思う行事を割合が高い順に並べたものである。「修学旅行」「遠足」「球技大会」など、学校や教室を離れての学習が人気が高いのは、開放的な気持ちになり、友達とのきがねない楽しい時間を、大いに満喫できるからではないだろうか。

「合唱コンクール」や「文化祭」は、教科性がでて、やらされているという感覚があるのでは

ないだろうか。「駅伝」においては、個人競技性が強く、得意不得意という感情も結果に表れていると思われる。

⑨ あなたが良いと思う学級は？

＜ 男子 ＞	
1位	楽しいクラス・仲のよいクラス
2位	男女の仲がよいクラス
3位	元気のあるクラス

＜ 女子 ＞	
1位	男女の仲がよいクラス
2位	協力できるクラス
3位	誰とでも話せるクラス

「男女の仲がよいクラス」が1位に入っていることは、思春期に入り、異性を意識するものの、周りの目や自分の心の葛藤などで思うように関われない状況が希望として強く表れていると思われる。

(3) 担任の目から見た生徒の様子

全ての活動において女生徒優位な学級である。特に行事へは女子の方が積極的に行動し、男子を引っ張っている。学校一取り組みが早く、素晴らしいと誉められたり、男女アベック優勝という好成績も残した。このことから行事に対しては、男女各リーダーを中心として同じ目標に向けて頑張ることができる学級集団である。

しかし、休み時間や休憩時間、移動教室時の様子を見てみると、グループで行動している生徒たちの側で、1人席につき絵を描いたり、1人で移動する生徒も見られる。

集団単位で行動しているために仲間の言動に流される主体性の乏しい生徒や、中には自分の心と友達との間で葛藤している様子が感じられる生徒もいる。それらの生徒への学級の意識は、その生徒たちの意向（意見）を聞かずに、学級の活動を進めようとする場合も見られる。

さらに男女間の会話や話し合いは殆ど見られず、授業以外では、入り口側が男生徒、教室の奥が女生徒の集団と教室を二分する位置関係で行動している。

また中傷気味の言葉を使い、会話が行われていることも気になる。

以上の結果より、生徒の学校行事への意識の高さと他者理解と信頼体験を中心にした「構成的グループエンカウンター」を組み合わすことにより、信頼し合う望ましい人間関係を育むことができると推測する。

2 全体計画(指導計画)

エクササイズの実施には、まずアンケートから浮かび上がってきた生徒1人1人の状況や学級の実態にあったもの、次に行事の目的と関連したエクササイズという順で選択した。ただし行事の目的にあったエクササイズの内容は、学級の実態に合わせてアレンジした。

月日	エクササイズ	ねらい	活動内容	備考
10.28	アンケート(自作)	生徒自身や学級の実態を把握	問題を読み、自分の気持ちにあうものを選ぶ。	
11.7	じゃんけん列車(実践事例①)	ゲームを楽しみながら生徒間の親睦を図る。(エンカウンター-始め)	5~6名のグループでじゃんけんをして、勝った順に並び、グループ同士でじゃんけんをして、最後は学級で一つの長い列車を作る。	学級の実態に応じたエクササイズ
11.10	「Q-U」アンケート	生徒の学校生活意欲や学級満足度実態を把握する。	問題を読み、自分の気持ちにあうものを選ぶ。	
11.14	自分探し(実践事例②)	エコグラムの作成や結果を通して、生徒が自己啓発の具体的な視点をもてるようにする。	50項目の質問に対して、自分の気持ちにあったものを選ぶ。	学級の実態に応じたエクササイズ
11.21	ブラインドウォーク(実践事例③)	他者に支えられることの素晴らしさを味わう。人を支えることの喜びを知る。	二人一組で一人が目を閉じ、もう一人がその人の目になり、誘導しながら教室の内外を自由に歩く。	学級の実態に応じたエクササイズ
11.28	団結の木(実践事例④)	駅伝競走大会に向けて力を合わせると、	新聞紙の上に、決められた人数が乗ることができるかを競う。	校内駅伝競走大会にむ

		成功するという実感を体験させることで、お互いの信頼感を深める。		けて学級の団結と意欲の向上を図る。
12.6	共同コラージュ (実践事例⑤)	自分たちの気持ちをコラージュに表現し合唱コンクールを成功させるためには、どうすればよいかを認識させる。	合唱コンクールのパートごとにグループになる。曲に関するテーマにあったコラージュをグループごとに作成し、感想を話し合う。	合唱コンクールにむけて学級の団結と意欲の向上を図る。
12.22	あなたへ感謝カード (公開検証授業)	生徒自身や級友の良い面を発見し、認め合い、感謝しあう体験をさせることで、自己開示と他者理解を促し、信頼感を高める。	合唱コンクールの取り組みを通して自分の気持ちを感謝カードに書き、級友に書かせる。	合唱コンクールに関するまとめ
1月	「Q-U」アンケート	生徒の学校生活意欲や学級満足度実態を把握する。(再)	問題を読み、自分の気持ちにあうものを選ぶ。	
1月	ふわふわ言葉と チクチク言葉	温かい言葉を進んで使う肯定的な人間関係をつくることを目指す。	これまで言われたことがある、又は聞いたことがあるふわふわ言葉とチクチク言葉を出させて、どのような気持ちかを感じる。	学級の実態に応じたエクササイズ
2月 (案)	ブラインド・デート	異性に対する見方・考え方に気づき、相互に認め合うことで温かい人間関係をつくる。	全員が小さな画用紙に自分の特徴を書いて、画用紙を掲示板に貼る。全員がそれを読み、誰が書いたかを当てる。	学級の実態に応じたエクササイズ
3月 (案)	無くて七癖	一年間学級の中で培ってきた人間関係を土台にお互いの良い点、改善点を述べ合いながら、一層の自己啓発へ導く。	・アドバイスカードに書かれている友達から見た長所・短所と自分が書いたものとの異同を考える。	学級の実態に応じたエクササイズ

Ⅷ 授業実践

全体計画に基づいた授業実践の記録は下記の通りである。

1 実践の記録 (No①～⑤)

11月7日		じゃんけん列車		[実践事例 ①]
ね ら い	①ゲームを通して、学級の雰囲気をよくする。			
	②これから行う構成的グループエンカウンターの目的や方法についてわかる。			
指 導 の 展 開	場 面	教師の指示 (●) と子供の反応 (☆)		留 意 点
	導 入 1) アイスブレイキング ゲーム	教師の先週の様子を報告する。 ●じゃんけん列車 ①好きな同士 (男女) 4～5名のグループを作り、まず握手をし、よろしくと挨拶をする。 ②グループ内でじゃんけんをする。 ③勝った人をリーダーとし、列車を作る。 ④学級で一番じゃんけんが強い人が列の一番先頭にくる。		BGM: ジャパニーズポップ MAXの曲 効果的に流す
	1-2) シェアリング	●やる前とやった後では、気持ちの変化はどうであるか発表してもらおう。		
	2) 「Q-U」アンケート	「Q-U」アンケートの説明と実施		

3) 構成的グループエンカウンターの説明
シートを使って構成的グループエンカウンターを実施する時の注意を確認する。

反省と考察

・生徒たちは、これまで学級活動の時間を一つの教科としてあまり意識しておらず、真剣に話しを聞いて活動することが少なかったため、ゲーム一つさせることも大変であった。結局、その時間はゲームに時間を割いてしまい、構成的グループエンカウンターの説明は十分に行えなかった。(後日11月10日朝の会で説明)
・男女の交わりができないと思い男女それぞれで分かれてグループを作らせたが、最近喧嘩をしたという女生徒たちの周りでうまくグループが作れず、時間がかかった。
・自分の後ろの状況を考慮して動くとか、ふざけて「きもい、触るな」という言葉を使っている生徒も見られ、優しさのある言動がうまくできない、他者に合わせる事が苦手である集団であるということがわかった。

ふり紙返りより

(生徒の感想より)
・ゲームをして楽しかった
・面白かった
・女子の肩に手を置くのは嫌だった。
・自分が女子の最後だったので嫌だった。
・疲れた。
・じゃんけんは意外と強いことが分かった。

11月14日

自分探し

[実践事例 ②]

ねらい

①エゴグラムを作成や結果を通して生徒が自己啓発の具体的な視点をもてるようにする。(自己理解)

指導の展開

場面	教師の指示(●)と子供の反応(☆)	留意点
導入	教師の先週の出来事を発表する。	
1) アイスブレイキングゲーム	●後ろに倒れる ①二人一組を作り、まず握手をし、よろしくと挨拶をする。 ②同じ方向を向き、二人の間は15センチほど空けて立つ。 ③前の人は目を閉じたままそっと後ろに倒れる。後ろの人は、しっかり支えて元へ戻す。	BGM: エンヤ BGM
1-2) シェアリング	●やってどうであったか発表してもらう。 ●前時に行った構成的グループエンカウンターを実施する時の注意を再確認する。 ●修学旅行の班に分かれて座る。(筆記道具持参)	
2) 構成的グループエンカウンターの説明再確認		
3) エクササイズ		
①インストラクション	●ねらい・内容・ルールの説明 ●50項目シートの配布・説明・記入の指示 ☆質問事項に取り組む。	
②エクササイズ	●○は2点、△1点、×0点で各項目の合計を出し、折れ線グラフまで仕上げましょう。 ●*注意*このエクササイズの目的はどの性格がよくて、どの性格が悪いということを考えるものではありません。このグラフから自分の性格を知ることです。 ●「私の3つの心」の説明 親の心P, 大人の心A, 子供の心C CP: 父親的な心 NP: 母親的な心 A: 大人の心 FC: 自由な子供心 AC: 従順な子供心 ●グラフを見て、どう感じたかをワークシートに記入しよう。そして、そのグラフを他のメンバーにも見せて、なんと行ったかも書き取りましょう。それを聞いて自分の感想を書きましょう。	なるべく△は付けないように直感的に答えるように促す 言葉の意味がわからない語句の確認する 自己理解のための手がかりの一つにすぎないことを強調する グループに見せたくない人は無理にみせなくて良い。

	<p>☆ワークシートに取り組む</p> <p>●次に「将来こうなりたい」と思う自分になって、今度は赤ペンでもう一度同じ行程でグラフを作成してみましょう。</p> <p>☆質問シートに記入する。</p> <p>●黒と赤で書いたグラフを比較して、「大切にしたいこと」「意識して変えて見たいこと」をワークシートに書いてください。</p> <p>☆ワークシートに取り組む</p> <p>●ワークシートを元に何でもいっから話し合ってください。</p> <p>☆話しあう</p> <p>●どんな話しができてきましたか。班長さん発表して下さい。</p> <p>●もう一度自分を見つめ直し、これからの生活に生かして下さい。</p>	
4) シェアリング		
5) まとめ		

考察

- ・アイスブレイキングゲームは計画では、5～6分という長さだが、実際には15分ほどかかっている。時間が架かりすぎた理由としてペアが作れない、ペアと共に行動できないなど、十分な自己理解・他者理解ができていないためだと推測できる。
- ・今回のエクササイズはゲームではないが、自分を知ることができるよいエクササイズであったと思う。
- ・1人1人が真剣にシートに取り組み、1人を除いて見せ合い、シェアリングがしっかりできていた。

ふり返り用紙より

あなたは今日のエクササイズは楽しかったですか。(%)

とても楽しかった	51	少し楽しかった	29	17	3
				どちらとも いえない	あまり楽し く な か っ た

今日のエクササイズはあなたのためになりましたか。

とてもためになった	20	かなりためになった	37	どちらともいえない	40	3
						な っ て い な い

あなたは相手の人が話している時に、話す人の身になり、話しやすいように考えながら聞いていましたか。

14	少し考えていた	34	どちらともいえない	38	14	3
い つ も 考 え て い た					あ ま り 考 え て い な か っ た	

あなたは自分がしゃべるときは、恥ずかしがらずに相手の人に話すことができましたか。

たいへんよくできた	29	少しできた	34	どちらともいえない	34	3
						全 然 で き な か っ た

(生徒の感想より)

- ・自分は「母親の心」だっけ分かってびっくりした。みんなは「そうかもね」と言ってた。
- ・みんなと結果を見て、笑って楽しかった。自分に少し合っているかもしれないと思った。
- ・自分では違うと思っていたけど、みんなは「合ってる！」と言ってた。
- ・以外だと言われた。この授業で自分の意外な部分があった気がする。
- ・相手をちゃんと信じることができた。とっても楽しかった。

11月21日 フライドウォーク [実践事例 ③]						
ねらい	①他者に支えられることの素晴らしさを味わう。 ②人を支えることの喜びを知る。					
指導	<table border="1"> <tr> <th>場 面</th> <th>教師の指示 (●) と生徒の反応 (☆)</th> </tr> <tr> <td>導 入 (1)アイスブレイキング ゲーム</td> <td>リーダー (教師) の先遣の様子を報告する。 ●ピットンコ友達 ①形取ったものを配布し、ピッタリとあう仲間を捜す。</td> </tr> </table>	場 面	教師の指示 (●) と生徒の反応 (☆)	導 入 (1)アイスブレイキング ゲーム	リーダー (教師) の先遣の様子を報告する。 ●ピットンコ友達 ①形取ったものを配布し、ピッタリとあう仲間を捜す。	男女のペアになるよ うに配布に気をつける。
場 面	教師の指示 (●) と生徒の反応 (☆)					
導 入 (1)アイスブレイキング ゲーム	リーダー (教師) の先遣の様子を報告する。 ●ピットンコ友達 ①形取ったものを配布し、ピッタリとあう仲間を捜す。					

の	①説明 ②ゲーム	②形が合った仲間同士で座る。	男子の中、女子の中 に入らないといけな いので、リーダーが 援助をする
展	(1)-2 シェアリング (2) インストラクション (3) エクササイズ 「ブラインドウォーク」	やってどうだったかを発表してもらう。 ●エクササイズのねらい、内容、ルールの説明を行う。 ●これからやることを説明します。 ●リーダーとピッタリあった生徒は前に来て下さい。 私が目を閉じるので、後ろのドアの所までつれて行って 下さい。後ろのドアに着いたら、今度は役割を交換します。 ●どんな感じだったかを発表してみましょう。 ●このエクササイズのねらいを説明します。ねらいは二つ。 ①自分を人にまかせきりという経験です。任せられる自 分、任せられない自分を体験することです。 ②案内するときどれくらい優しさを出すことができる かを知ることです。 ●案内する役と案内される役を決めて下さい。次に役割を 交換します。 ●歩いている間は、話さないで下さい。 ●階段を使い家庭科室まで行き、交換して戻ってきて下さい。 ●では、気をつけて始めなさい。	
開	①デモンストレーション ②インストラクション	☆実施 ●目を閉じた人は、どんな感じであったかを伝えて下さい。 そしてもう1人は案内をしていたとき、優しさをどのよ うに伝えようとしたかを言って下さい。 ●次にどれだけ任せられたかを伝えて下さい。全然任せら れなかった人はそのことを相手に伝え、どうして任せき れなかったかも伝えて下さい。	静かにさせて、黒板 に集中させる。
	③エクササイズ	☆話し合い ●話し合ったことを発表して下さい。 ☆話し合ったことや感想を発表する。 ●1人1人、優しさの表現は違います。人に自分を任せる ことは勇気がいります。また男女の優しさを表現する違 いも知ることができたらいいと思います。	できるだけ、目を閉 じればいと個別に 指示をする。 巡回しながら危険が あるペアについて は、回避のために適 切に指示をする。
	(4) シェアリング		
	(5) まとめ		

・限られた授業の回数の中、そろそろ男女のエクササイズを取り入れてみよう計画したエクササイズだった。しかし、案の定ピットンコ友達からかなりの抵抗があったため、リーダー（教師）を二人置き援助をしながら行った。

・ブラインドウォークにおいては、一斉に出発させたが相手が異性なのが嫌で、勝手に気のあった同士で出発し、残された生徒もいた。一斉に行動させるのではなく、前から順番に出発させると良かった。

・気持ちでは異性と交流したいという気持ちはあるが、人の前ではなかなか近くにも寄れないという中学生特有の感情が見られた。

・今回は男女ペアで行う1回目であったか、アイスブレーキングゲームよりもエクササイズの時が男女の交流の場が多少多く見られた。このことから回数を重ねる毎に交流は増えるのではないかと予想される。

・男生徒は歩幅を小さくしたり女生徒は声をかけたりして、それぞれに優しさを表現していた。

ふ	1. あなたは、今日のエクササイズは楽しかったですか。	とても楽しかった 34	少し楽しかった 28	どちらともいえない 28	10	
						あまり楽しなかった
り	2. 今日のエクササイズはあなたのためになりましたか。	とてもためになった 24	19	どちらともいえない 38	19	
返		かなりためになった				あまりためになっていない
り	3. あなたは相手の人が話している時に、話す人の身になり、話しやすいように考えながら聞いていましたか	いつも考えていた 23	少し考えていた 24	どちらともいえない 41	6	6
用						あまり考えて 考えて いなかった いなかった
紙						

4. あなたは自分がしゃべる時は、恥ずかしがらずに相手の人に話すことができましたか。

大変よくできた 28	少しできた 18	どちらともいえない 28	少しできなかった 24	全然できなかった 2
------------	----------	--------------	-------------	------------

全然できなかった

(生徒の感想より)

- ・本当は少しいいから、男子とお話ししたりして、仲良くできたらいいなと思いました。
- ・あまり話したことがない人と話せたので嬉しかったです。
- ・恥ずかしかった。男子とのペアは避けたい!
- ・☆のパートナー探しのゲームは、とってもドキドキしました。でもおもしろかった。
- ・とっても恥ずかしくていやだった。
- ・目が見えない時はとてもこわかったです。
- ・家庭科室まで行くとき、相手の人がへっぴり腰になっていて面白かった。自分が目をつぶるときは怖くありませんでした。

11月29日

団結の木

[実践事例 ④]

①校内駅伝競走大会に向けて、力を合わせると成功するという実感を体で感じることで、信頼感を深める。

場面	教師の指示 (●) と生徒の反応 (☆)	留意点
導入	先週の教師の様子を報告する。 ☆金曜日の校内駅伝競走大会に向けて、1人1人の目標タイムと意気込みを書く。 ☆書いたことを発表する。	
(1) エクササイズ ①インストラクション ②エクササイズ	●エクササイズのねらい・内容・ルールの説明 ☆男女別で駅伝の順序1番から10番までが一つのグループとし、エクササイズを行う。 新聞紙2分の1の広さからスタート ●できたグループはリーダーを呼んでください。(30秒間教える) ☆では始めて下さい。 ●全グループができれば、新聞紙4分の1の広さで行うように指示する。(以下繰り返し) *時間があれば、男女対抗で行う。 ●元のグループに戻って、今の感想を話し合ってください。 ☆話し合い	机を端に寄せ、適当な広さを確保する。
(2) シェアリング	●今話し合ったことを、グループの代表は発表して下さい。 ●校内駅伝競走大会まであと、3日です。勉強で得意不得意があるように、運動においても得意不得意はあります。駅伝は、1人1人の能力だけでは、良い結果を出すことはできません。1人1人の頑張りとそれを支えるみんなの声かけがあって、結果が生まれます。 当日も頑張ってください。 ☆ふり返り用紙への記入	グループの全員が感想を発表するようにグループのリーダーは声かけをする。
(3) まとめ		

考察

- ・新聞紙の上に完璧に乗ることはできなかったが、一つの目標にむけてみんなでやろうとすることの大切さ、楽しさ、充実感を体感することができたように思える。
- ・シェアリングの意味・目的が把握できていないように思える。
- ・回数を重ねる度に、同性同士の深まりは高まっているように感じた。

1. あなたは、今日のエクササイズは楽しかったですか。

(%)

とても楽しかった 73	少し楽しかった 15	どちらともいえない 9	あまり楽しめなかった 3
-------------	------------	-------------	--------------

どちらともいえない 9
あまり楽しめなかった 3

2. 今日のエクササイズはあなたのためになりましたか。

とてもためになった 43	かなりためになった 30	どちらともいえない 27
--------------	--------------	--------------

3. あなたは相手の人が話している時に、話す人の身になり、話しやすいように考えながら聞いていましたか。

いつも考えていた 53	少し考えていた 21	21	3	3
-------------	------------	----	---	---

どちらも いえない あまり考えて いなかった 全然考えて いなかった

4. あなたは自分がしゃべる時は、恥ずかしがらずに相手の人に話すことができましたか。

大変よくできた 52	少しできた 30	12	6
------------	----------	----	---

どちらも 言えない 少し できなかった

(生徒の感想より)

- ・難しかったけれど、楽しかった。みんなが考えを出し合って積極的だった。みんな仲良くなった気がする。
- ・肩車したり、おんぶしたり引っ張りあったり、みんなで力を合わせて話し合いもできたからよかった。
- ・一致団結って感じだった。みんなでいろいろ考えるのも楽しかった。
- ・意見を出して、みんなが聞いてくれたのがとても嬉しかった。新聞紙にはうまく乗れなかったけれど楽しかった。
- ・みんなで手をつなぐとき、誰とつなごうかとか考えていたけど、自然と手を出すと誰とか関係なく手をつなぐことができた。

12月6日 **共同コラージュ** [実践事例 ⑤]

ね ①合唱コンクールに対するクラスの雰囲気をも高める。正直な自分たちの気持ちをコラージュによって表現し、お互いがそれを知った上で、合唱コンクールを成功させるためにはどうすればよいかを認識させる。(自己理解・他者理解)

場面	教師の指示(●)と生徒の反応(☆)	留意点
1) インストラクション	<p>●これから各班に、画用紙とマジックとのりを配ります。今日はこのグループで、コラージュを作ってもらいます。(見本提示)</p> <p>コラージュのテーマは自由曲の「ヘイル・ホーリー・クイーン」です。このテーマを表現するコラージュを作ってみましょう。まず日本語訳を確認してみましょう。(翻訳文確認)</p> <p>●テーマにあう写真や文字、絵などを雑誌や新聞紙から探して画用紙に貼り付けて、テーマのイメージや自分たちの全員の気持ち、パートの状態を表現するコラージュを作ってください。貼るだけでなく、音符や文字を書き込んでもかまいません。</p> <p>●途中、仲間の人とよく相談してコラージュを完成させてください。</p> <p>●スタートの合図から25分で、作業は打ち切られます。</p> <p>●次のことに注意して下さい。けっして競争ではありません。出来不出来も関係ありません。写真を探す、切る、貼るという作業を全員で協力してやって下さい。</p> <p>●出来上がったら、そのコラージュに題を付けて下さい。スローガンのようなものでもいいです。</p> <p>●では、始めて下さい。制限時間は25分です。</p> <p>☆ざわざわして相談を始める。 ☆雑誌などをめくり、写真を探し始める。 ☆画用紙に写真や絵を貼り出す。</p>	黒板に書いて確認する。
2) エクササイズ	<p>●25分たちました。まだ途中の班もここまでとします。</p> <p>●では各班、ふり返り用紙に感じたこと、考えたことを記入して下さい。(ふり返り用紙配布)</p>	

3) シェアリング

●班毎に、ふり返り用紙を使ってそれぞれが感じたことを発表し合ってください。また完成までに苦労したことやうまくできなかった理由についても話し合ってください。

●では、代表の人にまとめて発表してもらいます。発表が終わった班からコラージュを壁に掲示して下さい。

●このコラージュは、合唱コンクールまでずっと貼っておきます。もし、途中で自分たちの気持ちに変化があったら、手直して下さい。上から別の写真を貼ったり言葉を付け加えたりしてもいいです。ただし、班の人に相談をしてからにして下さい。

4) まとめ

●次にメッセージ交換をします。これから合唱の練習を通して、他のパートが頑張っているなとかうまくなっているなと思った時、又は気持ちがだれて来たなという時は、応援や励ましの言葉をお互いに書いてメッセージボードに貼ってあげて下さい。ただし、メッセージはグループ全体にあてたものにして下さい。先生もどんどん送ります。(メッセージカード配布)

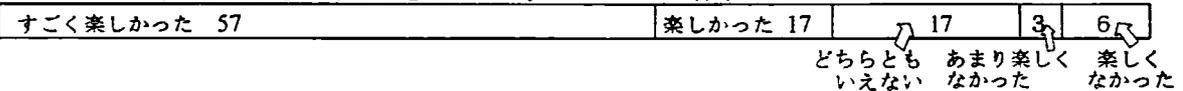
考
察

- ・テーマを合唱コンクールと絞ったのは良かったと思う。そうでなければ、全然関係ないコラージュが出来上がっていたと思う。
- ・コラージュの内容を見てみると、女生徒はどのグループも自分たちが歌っている雰囲気表現し、男生徒の1グループはテーマのイメージを表現していた。男の子らしさが表れていて良かった。
- ・男子の1グループはリーダの介助や声かけにもあまり乗れず、協力や行動を起こす様子もなくグループの構成段階で問題があった。くじ引き等でグループを作る必要がある。
- ・男子はテーマの「マリア様」から性に関する写真や切り抜きに興味を示し、少し脱線ぎみであった。
- ・女生徒は、どのグループも積極的に活動していた。女生徒の関わりは深くなっていると感じられた。
- ・話しを聞く態度ができてない生徒が男生徒に2名～3名いるので、個人面談で対応していきたい。
- ・女生徒は、自分が積極的に友達と関わることで楽しみや充実感が倍に達することが分かってきている。

ふ
り
返
り
用
紙
よ
り

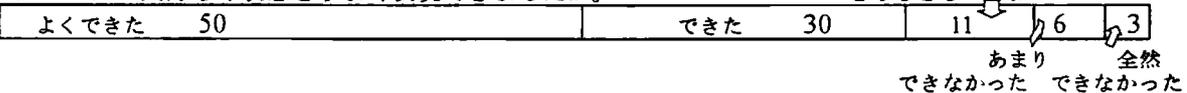
1. コラージュ作りを楽しむことができましたか。

(%)



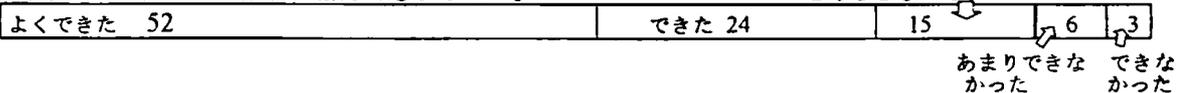
2. グループの気持ちや状態をうまく表現できましたか。

どちらもいえない



3. あなたはコラージュ作りに協力できましたか。

どちらもいえない



(生徒の感想より)

1. コラージュづくりで何を感しましたか。

- ・チームワーク (協力・まとまり)
- ・音楽の楽しさ
- ・自由
- ・みんなでやると楽しい。
- ・うちのクラスの曲は明るい。
- ・今どんな気持ちで歌っているかわかったような気がします。

2. 合唱コンクールであなたはどのようにがんばろうと思いますか。

- ・歌詞を間違わずに歌う。
- ・アルトは声を出しづらいけど頑張ります。
- ・大きな声で歌う。
- ・金賞をねらう。
- ・心を込めて歌う。
- ・精一杯に歌う。
- ・笑顔で楽しく歌う。
- ・協力して歌う。
- ・心をつにしてアルトとソプラノがハモるように頑張る。

学級活動指導案

平成 17 年 12 月 22 日 (木) 4 校時
 浦添市立神森中学校
 2 年 4 組 (男子 17 名 女子 20 名)

(1) 題材 (エクササイズ) : 「あなたに感謝カード」

(2) 題材観

「行事はきっかけである。」と本校の教頭は行事の際に必ずおっしゃる。本年度もこれまでにいくつかの行事をこなしてきた。達成感を得られたものもあれば、そうでないものもあった。

要は、教師と生徒、生徒同士が心をつなげて取り組むことができたかどうかだと思う。

行事を行う目的に学校及び学年集団への所属感を深めることが挙げられる。育ってきた環境、考え方の違うもの同士が、同時期に一つの部屋の中ですぐにまとまることができるかということではない。行事をきっかけに一つ一つステップを踏み、徐々に生徒個人が学級への所属感を深め、その学級のカラーを作り上げていく。さらに行事の結果はその後の学級経営に作用するので、行事の取り組みや行事後のふり返りは大事にしていかなければならない。これまでは大きな行事を終えると感想・反省シートを用意し、朝の会や帰りの会の短い時間内で書かせて終わりというパターンが多いのが現状であった。それでは、自分や級友へのふり返りが十分できず、級友との関係に深まりが得られず、次の行事でも十分な達成感が得られないことがあった。

本時は合唱コンクールに関連してのエクササイズである。合唱コンクールに関連してのエクササイズは行事前に「行事への自己理解と集団の団結とやる気の向上」という目的で「共同カラーージュ」というエクササイズを行った。自由曲の「ヘイル・ホーリー・クイーン」をテーマにした共同貼り絵だが、多くのグループは歌っている本人たち自身をイメージした作品が多かった。曲のイメージよりも声を合わせることに殆どの生徒が一生懸命であったという時期だったと推測できる。本時は合唱コンクールを終えて、自分自身や級友・学級をふり返る機会として設定した。

本題材の「あなたに感謝カード」は、自己開示・他者理解を目的に合唱コンクールの取り組みを通して、自分がしてもらったことや、学級にとって良かった行動に対して感謝の気持ちを表すというエクササイズである。このエクササイズを通して信頼し合える人間関係作りに迫れると考え、本題材を選択した。

(3) 生徒の実態

全ての活動において女生徒優位な学級である。自作アンケートよりグループ単位で行動する生徒が多く、それ故、孤独に感じている生徒のいる。また自己理解・他者理解にやや欠けているため、友達に対しても思いやりの言動が不足していたり自己開示の体験が不十分のため、うまく自分の気持ちを伝えられていないということがわかった。

さらに心理検査 (「Q-U」アンケート学級満足度・学校生活意欲のまとめ: 11 月 10 日実施) から、いじめや悪ふざけをうけてはいないが、学級内で認められることが少ないと感じている生徒が 31 % と多く、いじめや悪ふざけをうけているか、他の生徒とのトラブルがある可能性が高い生徒が 11 %、耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向にある生徒が 23 %、要支援群にあたる生徒が 1 人という結果がでた。

(4) 指導の留意点

上記のことから、楽しい雰囲気の中で自分の個性や自己を表現でき、友人関係を深められるようなエクササイズを入れていきたい。

エクササイズ中、教師は下記のことを配慮する必要がある。

① 生徒 1 人 1 人の参加の仕方を観察する。

教師のインストラクションをしっかりと聞いているか、内容を理解しているか、意欲的に参加しているか等を観察する。

② ダメージを予防する。

相手を傷つけるような言葉や行動を事前に禁じ、ダメージを予防することが必要である。

③ メンバーの感情を観察し、抵抗がある場合はこれを取り除く。

エクササイズ中に生徒にどんな感情が起こっているか観察する。抵抗を起こしている生徒に関しては、声かけをする。

④ グループ内のコミュニケーションを観察する。

グループ内での生徒の発言が均等に行われているかどうかを観察する。このとき非言語的なコミュニケーション（視線・うなずき・顔や体が発言者の方を向いているか）を見るようにする。

- ⑤ ルール違反がないかを観察する。
エクササイズ中にルールが守られていないことを見つけた場合は、その場で注意をする。
- ⑥ 1人に対するカードの枚数の偏りがないように注意する。
一枚もカードをもらえない生徒がでないように、エクササイズの事前に教師が集団に介入し発見・言葉掛けを行う。
- ⑦ シェアリングで自分の感情に気付かせる。
教師は、観察を通して、適切な言葉かけを行う。
- ⑧ 教師がモデリングの対象となる。
エクササイズに教師が参加して、自己開示のモデルになったりすると、グループのエンカウンター（本音と本音で話し合う）が促進される。
- ⑨ ねらいからはずれないように、舵取りをしたり、介入したりする。
日常の関係を引きずっている生徒にとって、エクササイズのねらいからはずれた行動を取ることがある。このような言動は、教師が介入し、軌道修正をする。
- ⑩ 教師は自己開示を積極的に行う。
自己開示とは、沸き起こる感情や考えを表明することである。エンカウンターでは大切なもので、教師は積極的に自己開示のモデルとなる。

(5) 本時の活動

① ねらい

- 合唱コンクールの取り組みを通して、自分の気持ちを感謝カードに書き、級友に渡すことができる。
- 生徒自身や級友の良い面を発見し、認め合い、感謝し合う体験をさせることで自己開示と他者理解を促し、信頼感を高める。

② 授業仮説

- 1) 級友の言動を思い出し、その言動に対して自分の気持ちをカードに記入することで、自己開示が促されるだろう。
- 2) シェアリングをすることにより、級友の考え方や気持ちを知ることができ、他者理解が促されるであろう。

③ 指導の展開

	学 習 活 動	教師の支援と留意点	授業中の生徒の声
導 入 10 分	1. ビデオ視聴 (合唱コンクール本番の様子) 2. コンクールのふり返り (1) 本番の様子 (2) 取り組みとしては どうだったか (1 学期の行事を思い出してみる)	○合唱コンクールの様子を見て、その時の気持ちを思い出させる。 ○何故、こういう結果がでたのか、考えさせる。 ○マイナスの要因ばかりを示すだけではなく、「修学旅行等で練習する時間がなかった!」「手拍子が多すぎて覚えなかったね!」などフォローする言葉もかける。	(1) に対して 「声は出していたけどな~!」 (2) に対して 「気持ちが乗ってなかった」 「練習が足りなかった!」
イ ン ス シ ト ヨ ラ ン ク 3 分	3. 教師の感想 4. エクササイズの流れとねらいを聞く。 5. 教師のデモンストレーションを見る。 《カードを送る人(指揮者・伴奏者・パトリリーダーに限定)》	○エクササイズの進め方やポイントがわかるようにカードを使ってわかりやすく、手短かに説明する。 ○具体的なイメージが持てるように、カードの記入の例を示す。 ・「ありがとう」「どういたしまして」等の言葉も加えるとさらに良い。	「3名にしか書けない? 頑張った人も他にもいるよ! かわいそうだよ!」 「他の人にも書きたい!」
エ ク サ サ イ	6. あなたへ感謝カード1 ・カードへの記入(2枚) ・2~3名に発表してもらおう。 ・カードの交換	○丁寧な字で書くことや、適当でない言葉を使っている生徒へ言葉がけをする。 ・教師も一員として輪に入って発表してもよい。	女生徒A(要支援) 「OOさん(指揮者)へ、み

ズ 7 分	7. 教師の話	○あらかじめ口火を切ってくれる生徒を選び、頼んでおく。 ○1人1人ががんばったことに気づかせる。	みんなをまとめてくれてありがとう!
エク ササ イズ 10 分	8. あなたへ感謝カード2 <グループで活動> ・カードへの記入(5枚) ・2~3名に発表してもらおう。 ・カードの交換 <図11・12参照>	○級友の良さを発見し、友達から認められたという気持ちを味わわせる。	男生徒・女生徒複数 「足りないからカードをもらっていい?」 「もう少し書く時間を下さい!」
シ ェ ア リ ン グ 10 分	9. エクササイズを終えての感想を話しあい、分かち合う。 1) グループ 2) 学級全体	○1人の気づきを全体で共有できるようにする。 ・できるだけ時間を取る。	「たくさんカードをもらって嬉しかったです!」 「来年の合唱コンクールは頑張ろうと思った!」
ま と め 5 分	10. シェアリングを含めての感想を「振り返り用紙」に書く。 <図13参照> 11. 教師の話聞く。	○エクササイズのことだけでなく、今回の合唱コンクールについてや来年の合唱コンクールへの意気込みも書かせる。 ○授業の取り組む姿勢を評価する。 ○「あと3ヶ月間、今よりも美しい学校になるように協力していこう。」	

④ 評価

- 自分の気持ちをカードに書くことができ、相手に渡すことができたか。(自己開示)
- 級友の発表を聞き、級友の考え方や気持ちを知ることができたか。(他者理解)
- みんなの協力で行事が成功することがわかり、次の行事への意欲が高まったか。

⑤ 板書計画

今日の授業の流れ

- 1) 合唱コンクールを振り返る
- ↓
- 2) エクササイズの説明
- ↓
- 3) エクササイズ
- ↓
- 4) シェアリング・まとめ

今日のねらい

- 1) 自分の気持ちを発表できる。
- 2) 友達の考えや気持ちを知る。
- 3) 友達に対する感謝の気持ちを持つ。

エクササイズ1の流れ

- 1) カードを2枚受け取る。
- 2) 指揮者・伴奏者・パートリーダーに感謝カードを書く。
- 3) 発表するカードを1つ選ぶ。
- 4) 感謝カードを発表する。
(希望者)
- 5) 感謝カードを選ぶ。
※1人に1枚書く。



図11 感謝カードの交換活動の様子

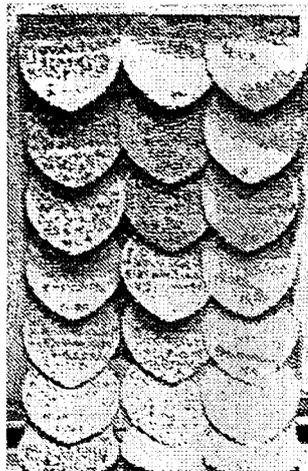


図12 感謝カード

エクササイズ2の流れ

- 1) カードを5枚受け取る。
- 2) 同じ班の人全員に感謝カードを書く。
- 3) 感謝カードを交換する。
- 4) 渡されたカードを確認しながらシートに貼る。

⑥ 授業で用いたワークシート
(振り返り用紙)

あなたに感謝カード (ふり返り用紙)
2年4組 返張

- あなたの感謝の気持ちをカードに書いて、相手に渡すことができたか。

とてもできた	できた	まあまあ	思った	あまり思えない
5	4	3	2	1
- 友達の考えや気持ちを知ることができましたか。

とてもできた	できた	まあまあ	思った	あまり思えない
5	4	3	2	1
- (あれば) 次の行事では頑張ろうと思えましたか。

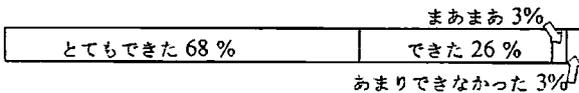
とても思った	思った	まあまあ	思った	あまり思えない
5	4	3	2	1
- 合唱コンクールの取り組みから本音を伝えて全体を通して感想を書いてみましょう。
- 来年の合唱コンクールに向けて意気込みを書いてみましょう。

今年1年、4月に書いた写真と出会えたことが My Best です。 来年もよろしく

図13 振り返り用紙

(6) 振り返り用紙から

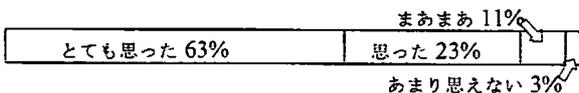
① あなたの感謝の気持ちをカードに書いて、相手に渡すことができたか。



② 友達の考えや気持ちを知ることができましたか。



③ 次の行事では頑張ろうと思えましたか。



④ 合唱コンクールの取り組みから本音を伝えて全体を通して感想を書いてみましょう。

・合唱コンクールの結果は悔しかったけれど、緊張しながらも楽しんでできたから良かった。
 ・アベック優勝したバレーの時よりも取り組みが遅かったし、意識がなかった。
 ・本番の時よりも練習の方がうまかった感じもするけど、良い思い出になった。
 ・少し練習が少なかったなあと思った。やっぱりもっと練習すべきだった。次に生かして頑張ろう。
 ・男子とか英語で難しかったと思うけど、よく頑張ったと思う。
 ・英語で歌うって聞いたとき、正直びっくりした！修学旅行とかいろいろな行事があったから練習もちょっとしかしていないけど、なかなか良かったと思う。賞は取れなかったけれど、青春したよ～！

⑤ 来年の合唱コンクールに向けて、意気込みを書いてみましょう。

・バレーでアベック優勝を取った時のような気持ちを忘れないで来年こそは、賞をもらおうぞ！
 ・来年は今年みたいにあの時こうすれば良かったなあと思わないように完璧に取り組みたいです。
 ・学級が一つになった時の素晴らしさ、楽しさ、やった！という気持ちを味わいたい。来年も頑張るぞ！
 ・最初から真剣に取り組む。
 ・来年は最後なので本当に悔いのないように大きな声で歌ってクラスで盛り上がりたい。

(7) 生徒の様子

合唱コンクールを終えた直後の授業であった。コンクール終了後は、賞に入らなかったショックでどの顔も沈んでいて、声さえ掛けることができなかった。授業の導入段階のビデオ鑑賞では、思ったよりも元気な反応があって少し安心した。また、感謝カードを書く人を限定した時には、「他の人も頑張っていたよ、かわいそうだよ」という温かい言葉も飛び出し、感動した。カードをグループの人以外(担任や他の生徒)にも書く生徒や与えられた時間以上に書きたがる生徒がいて、多くの生徒が感謝カードの活動を楽しんでいた。またこの活動を通して男女の交流も見ることができた。

(8) 考察

① 授業仮説の検証

<仮説1>
級友の言動を思い出し、その言動に対して自分の気持ちをカードに記入することで自己開示が促されるであろう。

感謝カードより

- 練習の時、心ざけている男生徒にハッキリと意見を言ったりしてまとめてくれたので、学級がまとまったと思います。ありがとうございます。
- かけ声を自分から進んでやってくれてthank you.
- 一番声を出して歌ってくれてありがとうございました。
- 伴奏は、すごく難しかったけれど毎朝練習していたよね。ナイス・ファイト！
- アルトの練習の時に、ピアノで音程を合わせてくれたので、練習がしやすかったです。
- 〇〇くんのソプラノソロのおかげでこの歌が盛り上がったと思う。ありがとう。
- 途中からソロやって、覚えるのとか大変だったでしょ！大きい声を出してがんばったね。おつかれさん！

以上の生徒のカードの内容やふり返し用紙の質問1に対して97%の生徒ができたと答えていることから、自己開示が十分できたと推測できる。

<仮説2>
 シェアリングをすることにより、級友の考えや気持ちを知ることができ、他者理解が促されるであろう。

時間も押し迫っていた中だったが、これまでの授業の展開を生徒自身がしっかりと把握していたため、多くのグループがスムーズにシェアリング活動に入れていた。中には、個人の発表の後に拍手を自主的に行っているグループも見られた。

振り返し用紙の質問2に対して94%の生徒が友達の考えや気持ちを知ることができたと答えていることから、他者理解に関しても十分できたと推測できる。

IX 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

作業仮説(1)
 「Q-U」アンケートや自作のアンケートによる結果を活用し、学級の実態に即したSGEは、自己や他者への理解を促すだろう。

- (1) 「Q-U」アンケートから(1月17日実施) 検証前と検証後のアンケートを比較し、変化を考察した。

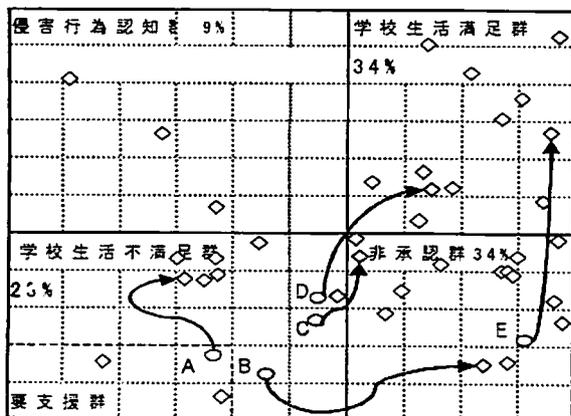


図14 学級満足度尺度プロット図

表5 検証前後の結果

	学級満足群	非承認群	侵害行為認知群	学級不満足群
検証前	32%	31%	12%	24%
検証後	34%↑	34%↑	9%↓	23%↓
全国	35%	15%	17%	33%

図14の学級満足度尺度の図と表5の結果から、検証前と検証後の生徒の分布の変化はあまり見られない。

むしろ要支援の生徒が新しく2人になり、検証前の検査では、満足群に入っていた生徒が侵害行為認知群に入ってくるなど、一見悪くなったかと思われた。しかし、その原因を確認すると、これまで仲良くしていた生徒との喧嘩や担任が指導中であったということがアンケートの結果に表れたものであると分かった。

また行事やSGEの活動を通して、満足群に入ってきたと思われる女生徒が3名見られた。彼女らはそれぞれの行事において、責任のある役割を果たし、そのことが自信につながり、満足群へ移行したと考える。

抽出生徒A(検証前:要支援)の変化には、非常に驚かされた。検証前のアンケートの学級や友達に対する意識が4ポイント上昇し、表情がすごく明るくなった。

抽出生徒Bにおいては、被侵害得点が10ポイントさがり、1人で学級にいるという事が全くなくなった。

抽出生徒Cにおいては、自分は自分、他は他という自他理解ができるようになった。

抽出生徒Dにおいては、被侵害得点が6ポイントさがり、無視されるということとはなくなったと自己診断している。

抽出生徒Eにおいては、承認得点が9ポイント上がり、行事等の活動を通して交友関係の幅が広がった事が分かった。

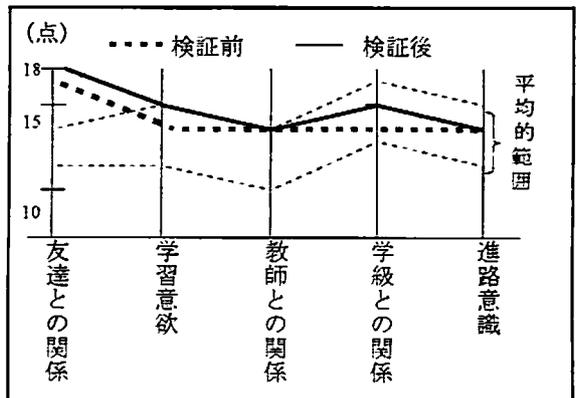


図15 学校生活意欲プロフィール

表6 検証前後の結果

	友達	学習	教師	学級	進路	(%)
検証前	16.9	14.2	13.9	13.9	13.8	
検証後	17.4	15.4	13.7	14.9	14.5	
全国	13.0	13.6	12.2	14.5	14.0	

図15の学校生活意欲プロフィールから「友達との関係」や「学級との関係」で得点が上昇していることが分かる。「いろいろな活動に誘ってくれる友達がいる」や「仲の良いクラス」という質問に対しての得点の上昇

が目立った。

- (2) さらに信頼関係に関する質問を検証前後で比較してみる。

① 人と仲良くする方法を知っている。

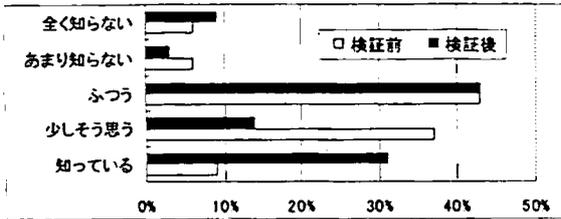


図16 人と仲良くする方法を知っている。

② 友人との付き合いは自分の成長にとって大切だ。

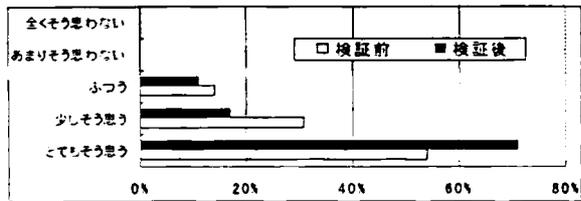


図17 友人との付き合いは自分の成長にとって大切だ。

③ 仲の良いクラスだと思う。

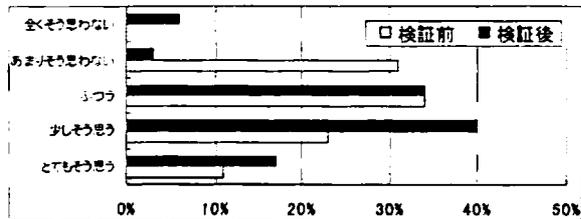


図18 仲の良いクラスだと思う。

④ クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。

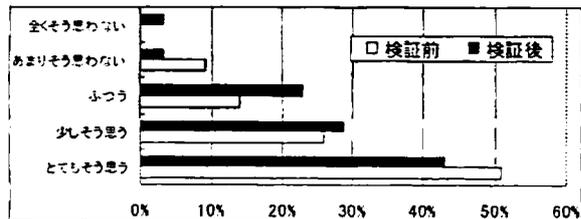


図19 クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。

「思う」「知っている」という肯定的な答えがどの質問においても、検証前と比べて伸びている。以上の各結果より、SGEの活動が自己や他者の理解に効果があったと考えられる。

2 作業仮説(2)の検証

作業仮説(2)

学校行事の分析を行い、その内容・目的に応じたSGEを行うことにより、1人1人の「行事を全員で成功させよう」という気持ちを促すことができるだろう。

(1) 校内駅伝競走大会とSGE活動の結果
行事後の生徒の感想の中から

○1kmを自分のペースで走って、次の人にたすきをつなげることがみんなできたので良かったと思います。1人1人が頑張って走ったおかげで私のクラスは総合4位になりました。アンカーも2kmなのにとっても頑張っていたし、みんなが完走できた事が感動です。これでクラスの輪が広がって、他の行事にも積極的に参加できると思いました。

○来年は自分が満足する走りをして、クラスのみならず優勝したいです。

○この日のために体力をつけたり、前日に浦添陸上競技場へ行って走ったりしました。

○僕の目標は、1人でも多く抜くことでした。本番では、3、4人を抜きました。クラスの結果は良くなかったけれど、みんな頑張っていたのでよかったです。

(2) 合唱コンクールとSGE活動の結果
行事後の生徒の感想から

○来年は、練習第1！みんなで協力して金賞を取ります。

○練習から本気を出して、次は絶対金賞をとりたい

○3年になったら楽しく取り組み、金賞そしてグランプリも取る！

○本当に悔いの残らないように大きな声で歌ってクラスで盛り上がる。

○クラスみんなで頑張って練習をして、とても良い合唱をしたい。

○ちゃんとハーモニーと声の大きさを大切にしてみんなが金賞取りたいという気持ちで頑張っていきたい。

以上の生徒の言葉より、1人1人が行事へ意識して取り組むことの大切さ、クラスで取り組むことの楽しさ、成功の喜びを感じることができ、各行事に対して「クラス全員で取り組む・成功させる」という意識の向上に効果があったと推測できる。

3 作業仮説(3)の検証

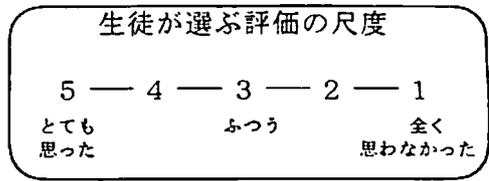
作業仮説(3)

エクササイズに乗れない生徒への個別の援助が、より積極的な参加を促すことができるだろう。

(1) 抽出生徒への援助と変容

表7 実践授業の振り返り用紙から見た抽出生徒の変容

質問	実践①		実践②		実践③		生徒の様子
	生徒A	生徒B	生徒A	生徒B	生徒A	生徒B	
①今日のエクササイズは楽しかったですか。	2	4	5↑	3↓	5	4↑	両生徒とも、学級の輪から離れていたが、回数を重ねるうちに自分から輪の近くによる様子が見られた。
②エクササイズはあなたのためになりましたか。	2	3	4↑	3	5↑	4↑	
③相手に自分のことを話すことができましたか。	1	3	4↑	3	5↑	4↑	



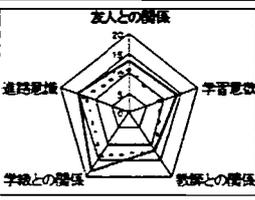
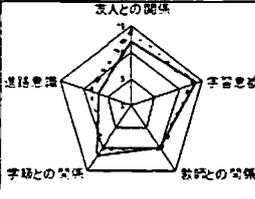
生徒	援助方法	変容						
		学校生活意欲プロフィール				学級満足度尺度		
			友達	学級	レーダーチャート ----- 検証前 —— 検証後	承認得点	被害得点	カテゴリーの変化
Aさん	・声かけ ・座席の配慮 ・ペア作りの援助	検証前	11	14		25	29	要支援群
		検証後	13↑	18↑		30↑	30	学級生活不満足群
Bくん	・声かけ ・ペア作りの援助	検証前	14	10		27	29	学級生活不満足群
		検証後	12	12↑		31↑	31	学級生活不満足群

図20 抽出生徒の変容（「Q-U」アンケートより）

「Q-U」アンケートの結果や日々の観察から生徒A・Bを抽出した。そしてその変容を表7と図20にまとめてみた。表7からは最初の実践授業では、全く輪の中に入ることができず膝を抱えて教室の隅にいたり、自分の席から離れる事ができなかった生徒が、担任の声かけや担任から生徒への援助願いを受けた生徒の声かけを受けることによって、授業に積極的に参加するようになった。その結果、授業の振り返り用紙の質問に対して、徐々に向上が見られた。更に図18では、学級満足度尺度のカテゴリーに変化は見られなかったが、承認得点において得点が上昇した。

また全体的な様子を表した学校生活意欲プロフィールの学級との関係においても上昇が見られた。このことより個別の援助がSGEの活動へ積極的に参加を促し、学級との関わりにも効果があったことが分かった。

X 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 「Q-U」アンケートや自作のアンケートを行うことで、生徒や学級の実態をより客観的により多面的に把握することができた。
- (2) アンケートの結果をもとに実践したSGEの活動によって自他の理解ができ、学級の信頼関係が深まった。
- (3) 学校行事の目的に応じたSGEの授業を行うことで、行事に対する意識が増し、取り組みも楽しく行うことができた。
- (4) 授業の中のシェアリングを通して、自分の気持ちを表現することや他者の気持ちに気づくことができた。
- (5) 学級活動の内容に深みがでて、教師だけでなく、生徒自身の学級活動への意識の変革がなされた。

2 今後の課題

- (1) 行事に関連させた SGE の授業を組み入れた特別活動の年間指導計画の作成。
- (2) 行事に対してゆとりのある取り組みの検討
- (3) 「友達とのつきあい方がわからない」生徒への個別の支援。
- (4) 行事の結果に応じた SGE の授業の開発。
- (5) いろんな場面に対応できるリーダーとしての教師のスキルアップ。

【おわりに】

学級活動の「学校行事」のみを取り上げても、十分な研究になるであろうに何故、行事に関連させた「構成的グループエンカウンター」の活動を研究しようと思ったのか。

研究中、授業を実践すればするほど、自分に問いかけたことです。しかし公開検証授業中の生徒の表情を見て、「これだ」という思いと達成感を味わうことで、他の教科と同様、行事もやりっ放しでは次への進歩があまりなく、振り返りが大切だということ、私自身が理解することができました。特に行事の結果（順位）を気にする生徒にとって「構成的グループエンカウンター」は、行事の後のフォローの一作戰としては有効であったと思います。

特別活動には教科書がなく、教師の力量が問われる教科で、私自身学級活動には頭を悩ませ、見せる授業なんてとんでもないと思っていました。しかし今回前々から興味があった「構成的グループエンカウンター」を研究、実践したことで、学級活動の幅が広がり、実践する楽しさ、活動への意欲が増してきました。この研修で得たものを現場で活かしたいという気持ちで一杯です。

研究期間中、研究全般に渡り指導、助言を頂いた研究所の比嘉信勝所長、當間正和係長、石川博基指導主事はじめ、研究所の職員の皆様には深く感謝申し上げます。また、テーマ検討会などで、助言や温かい励ましの言葉を頂いた浦添市教育委員会の諸先生方、そしていつもニコニコと言葉をかけてくださった神森中学校の池原武校長先生、職員の皆様には心から感謝申し上げます。そして私が大好きな2年4組の生徒と授業を受け持っている学級の生徒達全員に対して、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最後に、半年間研究のことだけでなく、私的なことに関しても共に励ましあったり、アドバイスをしてくれたマイ・パートナーの宮城里江先生にも、支えて頂きました。苦しい中を二人で乗り越えたという達成感で一杯です。皆様本当にありがとうございました。

<参考文献・引用文献>

『教師と生徒の人間づくり』	國分康孝	澀々社	昭和 61 年
『教師と生徒の人間づくり』 第2集	國分康孝	澀々社	平成 5 年
『教師と生徒の人間づくり』 第3集	國分康孝	澀々社	平成 1 年
『“学級づくり”スタートブック vol.1』	有村久春	教育開発研究所	平成 15 年
『エンカウンターで学級が変わる』 (中学校編)	國分康孝	図書文化	2001
『エンカウンターで学級が変わる part2』 (中学校編)	國分康孝	図書文化	2004
『エンカウンターで学級が変わる part3』 (中学校編)	國分康孝	図書文化	2005
『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集』	國分康孝	図書文化	2005
『中学校学習指導要領 特別活動編』		文部科学省	
○ベネッセ教育研究所 モノグラフ・中学生の世界 No.157・173			2004
○相模原市立総合学習センター No.139			2003
○岩手県立総合教育センター教育研究所			平成 17 年 3 月
○那覇市立教育研究所 研究報告集録			平成 15 年度
○福岡県糟屋地区教育研究所			